

葡語文法解說

海外興業株式會社編

603
342



60

34

大武和三郎著

ブラジル渡航者必携

Chave da Grammatica

Portugueza

葡語文法解説

海外興業株式會社編



603-342

序

南米ブラジルは邦人の移住發展上最も囑望せられて居る新天地である。近來其真相が漸く一般に知れ渡りて同國への渡航者が毎月相踵ぐの盛況を呈するに至つたのは邦家の爲め洵に歡ばしい現象と謂はねばならぬ。併しブラジルが如何に天恵に富むだ樂土であるにしても、生活を異域に營み、事業を海外に興すといふには夫相當の奮闘が必要である。奮闘の武器は言語である。由來邦人が折角優秀な素質を持ちながら國外に於て成功する者の甚だ尠いのは外國語の不得手なるに起因することが多いと思はれる。

ブラジルの國語即ち葡語は三百有餘年前葡萄牙人の來航と共に一時我邦に現れたことがあるけれども爾來久敷中絶して今や葡語を用ふる者殆んど無之きに至つた爲め輒近ブラジルが世の視聽を牽き渡伯者續出するにも拘はらず我邦に未だ葡語の文法に關する書籍の現はれて居ないのは實に我海外雄飛者に武器を與へずして敵地に入らしむるに均しきのみならず又我文献上の一大恥辱であると謂はねばならぬ。

葡語文法解説

Chave da Grammatica Portuguesa

目次

	頁
1. 文字	1
2. 發音法	1
3. 語勢	5
4. 語詞の分類	8
第一章 冠詞 Artigo	9
定冠詞	9
不定冠詞	9
定冠詞の用法	9
定冠詞を用ふる場合	10
定冠詞を用ひざる場合	13
第二章 名詞 Substantivo	18
固有名詞	18
普通名詞	18
名詞の種類	18

由て當社は此欠陥を補ふ爲め、葡語學者として本邦唯一の大家なる大武和三郎先生に懇請して本書を刊行することにしたのである。伯國在住の邦人並に一般葡語研究者諸君が幸に本書により裨益せらるゝ所あらば當社の本懐とする所である。

海外興業株式會社

専務 龍江義信

名詞の性	19
名詞の數	23
名詞(及び品質形容詞)の増大級 及び縮少級	25
第三章 形容詞 Adjectivo	28
品質形容詞	28
形容詞の性の變化	29
指定形容詞	37
數形容詞	39
不定形容詞	45
關係形容詞	47
形容詞の用法に就て	48
第四章 代名詞 Pronome	51
人稱代名詞	51
指示代名詞	56
物主代名詞	58
關係代名詞	60
疑問代名詞	62
代名詞 Se	66

代名詞の重複して用ゐらるゝ場合	67
代名詞を省略し得る場合	68
代名詞の位置	70
第五章 動詞 Verbo	77
規則動詞	79
不規則動詞	79
動詞の變化法	80
直接法	81
條件法	84
命令法	84
接續法	84
不定法	85
規則動詞の變化に關する注意	95
第六章 分詞 Participio	107
動詞の接續法の用法	115
動詞の特別なる用法	120
第七章 副詞 Adverbo	127
副詞に關する注意	136

副詞の位置.....138

第八章 前置詞 Preposição140

第九章 接續詞 Coujunção.....142

重なる接續詞的熟語145

第十章 間投詞 Interjecção149

第十一章 句點法 Punctuação151

附 重に使用さるる略字.....153

葡語文法解説

文字 Alphabeto

葡語の文字は次の二十六より成る但し w は元來外來文字にして外來語の使用上葡文字に含まれたるものなり。

a	b	c	d	e	f	g	h
ア	ベ	セ	デ	エ	エフ	ジエー	アガー
i	j	k	l	m	n	o	p
イ	ジョツダ	カ	エリ	エミ	エニ	オ	ペ
q	r	s	t	u	v	w	x
ケ	エルリ	エス	テ	ウ	ブエ	ダブルブエ	シース
y	z						
イブスロン	ゼ						

母字は a, e, i, o, u 及び y にして單獨の發音を有するもの、右を除きたる他の二十一字を子字と云ふ、子字は母字と結ひて音をなす。

發音法

發音の符號は

Agudo ('), Circumflexo (^),

Til (~) 及び Cedilha (,) にして

即ち

Agudo は長音 (強音) を保つことを示す爲に母字に附

するもの

dó, pé, pó の如し。
ド- ベ- ポ-

circumflexo は短音(弱音)を示す爲に等しく母字に附するもの

mercê, avô の如く
メルセ- アボ-

til は鼻音符にして二重韻の a 及び o に冠して鼻音を發するもの即ち

irmã, coração, melões の如く
イルマン コラソン メロンス

cedilha は c を軽く發音する爲の符號にして此の字の下に付するもの

lenço, roça の如し。
レンソ ロツサ

即ち agudo 音は高く無符號のものは mudo (無聲) と云ひて低く而て circumflexo を符したるものは其の中間にあり。

一般に葡語に於る綴字並に發音法は略ぼ羅馬字に於ると均しきを以て茲には只其差異を示すこととす。

(1)—c は母字 a, o 及び u と結付たる時は k の音にして

cara, cuidado, cova の如く
カラ クイダ-ド コ-バ

e, i 及び y の前に置きたる時は s の如く響く

cella, cirio, cysne の如し。
セラ シリウ シスヌ

(2)—ch なる重子字は母字 a, e, i, o, u を綴りて sh の如く響き (シヤ), (シエ), (シ-), (シヨ) と發音す

但し希臘語より傳來せる文字にして其の固有音なる k の發音を其儘用ゆるもの多し則ち monarcha の如き其の一にして(モナルカ)と發音す。

(3)—e は a と o の前にある時及び語尾にある時は i の如く響くものとす

cear, leão, teatro, real, peor 等の如し。
シア-ル リオン チアトル リアル ピオ-ル

「注意」 接續詞 e なる詞は (イ) と發音すへし

(4)—g は e と i の前に在りては j の如く響き

gelo, regio の如く而して文字の始に在りて子字に次

ぐ時及び a, o, u の前にある時は強く響き globo,
グロ-ブ

granja, gala, gole, gume の如し。
グランジャ ガ-ラ ゴ-リ グミ

(5)—h 此の子字は無聲にして文字の始に來る時は勿論僅かの例外を除き凡て發音せざるものと見做すべし

(6)—l 此字は邦人にとりては r と區別して發音すること甚だ至難にして假名を以て其の差を記し難し例せば sol なる語に於るが如く其發音は (ソ-ル) に非ず(ソ-)に非ず(ソ-ル)とでも記する外なからん而て(ル)は極く軽く響き且つ張上りたる調子なり。

(7)—lh 此の重子音は恰も li を約めたる如く a, e, o と綴りて (リヤ), (リエ), (リオ) と響く

(8)—o は語尾にある時は u の如く響く又然らざるも綴字の終りにある時同じく u の如く發音するものあり例へば botina の如く(ボチナ)に非ず(ブチナ)と發音す、男性冠詞なる o は (オ) と (ウ) の中間音にし

て寧ろ(ウ)に近し

[copo, modo, polo, molho の如きは o 強音を持す]

(9)—m は n が後に來る時には發音せず

alumno, columna, indemnizar の如し。

アルノ コルナ インデニザール

(10)—nh 此重子音は恰も ni を約めたるが如く (ニ+), (ニエ), (ニイ), (ニオ), (ニウ) と響く。但し n と h が集合子字に非ずして各單獨の子字なる時は例外なり

inhabil, inhumano 等是なり。

インアビル インウマノ

(11)—p は t に續かれたる時は無聲なり

prompto, optimo, escripto の如し

プロント オチモ エスクリト

但し幾多の除外例あり apto, inepto, optica の如し。

アプト イネプト オプチカ

(12)—q は常に u と共に用ひ而て此の u は母字 e と i を結付たる時は無聲にして (ケ) (キ) と響く

quebrar, esquina の如し。

ケブラール エスキナ

但し frequente, questão, tranquilo 等其他例外あり

フリクエンチ クエストン トランクイロ

又 a と o の前にありては重に有聲なれ共 quarto,

コワルト

quotização の如き除外例あり。

(13)—r は母字の間に挟りたる時及ひ語尾にある時は弱音なり然れども ab, ob, sub, pre, pro, de 等の接頭字を有する語にして此等に次きたる時は弱音となり rr の如く發音することあり

abrogar, obrepção, subrogação, prerogativa,

アブルオガール オブルレプソン スブルオガソン プレルオガチベ

prorogação の如し。

プロロルオガソン

(14)—s は母字の間に置れたる時は濁音となり z の如く響く

casa, mesa, rosa の如し

カザ メザ ローザ

但し pro, pre, re 等の接頭字の次に置れたる場合には幾多の例外あり

proseguir, presuppor, resurgii の如し。

プロセギール プレスツポール レスルジール

(15)—x は語の初と終に來る時は sh の如く

xarope, xadrez, calix となり

シキロツピ シキドレース カリース

綴字の中間にある時は sh, z 又は ks の三様になる

coxo, luxo, exacto, exame, fixo, anexo の如し。

コキシユ ルーシユ イザット イザミ フヒクソ アンネクソ

(16)—z は語尾にある時は sh の如く響く

luz, nariz, arroz の如し

ルーシ ナリーシ アローシ

z は屢々 s に代用す Brasil を Brazil, gas を gaz, Paris を Pariz と記すが如し。

語勢 (Acento)

語勢 (accento) の位置に依り語の音を三種に分つ即ち agudos とは最後の綴字の母字に語勢を保つものを云ふ

do mir, orador, ananaz の如し

graves とは終より第二の綴字の母字に語勢を保つものを云ふ。

coloso, monumento, の如し

esdruxulos とは終より第三番目の綴に語勢を保つものを云ふ

pallido, numero, circulo の如し

注意 以上三種以外に語勢が終より第四番目の綴にかかる語なきに非ざるも甚だ稀なり。

(1) 語勢の位置は數、性の變化に影響せず但し character なる語のみは複數の時は characteres となり caracteres と發音せず。

(2) 二個の綴より成る語は符號なき時は前の綴の母字に語勢を保つ例へは

nora, ovo, ira 等の如し。

(3) 二個以上の綴語は普通終より二番目の綴字の母字に語勢を保つ例へば

medicina, nobremente の如し

除外例に arbitro, celebre, cerebro, liquido 等あり。

(4) 二個の子字の先立ちたる母字は強音となる
tratante, ornamento の如し。

(5) al に終る語は agudo なり即ち最後の母韻たる此の al の a に語勢を保つ

notal, canal, conjugal の如し

但し setubal, annibal の如き固有名詞の例外あり。

(6) el に終る語も agudo なり即ち

cinzel, papel の如くなれ共 vel に終りたる語は grave なり:

possivel, movel の如し。

(7) il の時も普通 agudo なれ共 facil, difficil, docil, util, agil 等 grave となる語數多あり。

(8) ol 及び ul に終る時も亦 agudo なり
anzol, lençol, azul, paul の如し

但し consul は例外にして graves なり、從て複數 consules は esdruxulo となる。

(9) gem 及び dem に終る語は普通 grave なり
imagem, ordem の如し。

(10) im 及び um に終る語は agudo なり
marfim, commum の如し。

(11) ar, er, ir に終る語並に動詞の不定法は此等 a, e, i に語勢を保つ

militar, altar, particular, prazer, colher, talher の如し

但し assucar, caracter, cadaver 等は除外例にして grave なり。

(12) or 及び ur に終る語は agudo なり
propor, amator, superior, menor, catur の如し。

(13) x に終る語は grave なり:
calix の如し。

(14) z に終る語は agudo なり
rapaz, verniz, arroz の如し。

(15) ia に終る語も普通此 i に語勢を保つ
philosophia, geometria, academia の如し

但し ria, cia, dia に終りたる語は grave なり：
pharmacia, paciencia の如し。

(16) issimo に終りたる語は常に此の最初の i に語勢を保つ。

(17) ea, ei, eo, eu 等の二重韻に終る語は此等の e に語勢を保つ。

assemblea, idea, guerra, amei, recebo .の如し

但し area, redea 等は例外なり。

語詞の分類

葡語に九の異りたる詞あり即ち

冠詞	Artigo.
名詞	Substantivo.
形容詞	Adjectivo.
代名詞	Pronome.
動詞	Verbo.
副詞	Adverbo.
前置詞	Preposição.
接續詞	Conjunção.
間投詞	Interjecção.

第一章

冠詞 (Artigo)

冠詞は名詞に冠する詞にして此の名詞の性及び數を示し且つ名詞か或る定りたる意味に用ゐられたることを示すものなり。

冠詞に **定冠詞** artigo definido

不定冠詞 artigo indefinido

の二種あり

定冠詞とは明に名詞を指定するものにして男性 (masculino) と女性 (feminino) 及び單數と複數とあり

	男性	女性
單數	o	a
複數	os	as

男性は男性名詞の前に女性は女性名詞の前に用ふ

不定冠詞は名詞を指定せざるものにして、一個とか、或とか、若干等の意味を有す。

	男性	女性
單數	um	uma
複數	uns	umas

定冠詞の用法

定冠詞は名詞の定まるものを示すものなれ共其用法に關しては一定の法則なく習慣上用ふ可き場合と然らざる場合とあり

定冠詞を用ふる場合

(1) 普通名詞の前に

o cavallo é salipede.

o ferro é duro.

o homem é mortal.

(2) 特別なる又は制限的なる名詞の前

o rico lavrador.

o filho de Pedro.

a casa que nos vimos.

a seda que trouxe do Japão.

(3) 助屬詞 todo を供ひたる時その todo が全體を意味する場合

todo o anno.

toda a parte.

toda a cidade.

toda a casa.

toda a sua fortuna.

但し todo なる詞が各々を意味する時は冠詞は符するも符せざるも可なり

todo homem 又は todo o homem.

toda obrigação 又は toda a obrigação.

(4) 固有人稱名詞が形容詞によりて先だたれたる時

o destemido Rabello.

o sentencioso Sancho.

注意 名詞か形容詞に先だたれたる時は冠詞は其形容詞の前に置かる。

(5) 綽名の前に

a casa murú.

o pato macho.

(6) 五大陸の名若しくは一地帯の固有名詞の前に

a Europa o Sahara

a America a Nigricia

a Africa

a Asia

a Oceania

但し往時は是等の固有名詞には冠詞を付せざりしなり。

(7) 國名の前に

o Brazil

o Japão

a França

a Suissa

但し Portugal のみは冠詞を付せざる例なれ共其の或る時代を特定する場合假令は十六世紀の葡國と云ふ時は o Portugal do XVI seculo とし冠詞を付す。

(8) 州名の前には冠詞を付するものと付せざるものとあり付するものは a Bahia, o Pará, o Rio, o Cea á 等にして付せざるものは S. Paulo, Pernamfuco, Minas, Goyaz, Sta. Catharina, Sergipe, Matto-grosso 等なり。

(9) 山嶽,海,河,海峽等の固有名詞の前に

- | | |
|-------------|----------------|
| os Andes | o Mediterraneo |
| os Pyrineus | o Pacifico |
| o Atlantico | o Amazonas |
| o Tejo | o Bosphoro |

(10) 人稱名詞にして普通名詞様に用ゐられたる時
Camões é o Virgilio portuguez.

(11) 時として物主形容詞 (他國語にては物主代名詞) の前に

- a minha casa,
os meus amigos,

注意—是等の冠詞は付せざるも差支なし

(12) 人を呼ぶに單に Senhor, Senhora の稱號を用ふる時

- O Senhor já almoçou?
O Senhor quer pão?
A Senhora vai sahir?

(13) 所有人名詞の前に

- O teu é melhor.
A minha é linda.

(14) 時間を指示する場合

- A's duas horas,
ao meio-dia,
das cinco ás oito,

(15) 動詞の不定法現在を名詞として用ふる時男性

冠詞を付す。

Eu ouvia o gorgear confuso das andorinhas.

(16) 同上にして其働作の行はるる時を暗示する場合

Tome uma pilula ao deitar-se.

Ao escrever esta carta.

Ao chegar a S. Paulo.

(17) 名詞様に用ゐられたる形容詞, 前置詞, 副詞等の前

As vezes o barato sahe caro.

Ninguem sabe o porque das causas.

O pro e o contra

(18) 話題の物が對話者に了解せられ居る場合其の物主形容詞に代るに冠詞を以てすることあり。

Foi com o irmão.

Que fez da bengala?

定冠詞を用ゐざる場合

(1) 普通助屬詞を伴はざる固有名詞の前

Minerva plantou a oliveira.

(2) 諺, 金言, 標語等の前

Pobreza não é vileza.

Ordem e Progresso.

(3) 定義の主格なる名詞の前

Biologia é a sciencia da vida.

(4) 感嘆詞の時

Bella casa! Lindo passarinho!

- (5) 名詞の意味が不確定なる時若は部分的なる時

Dê-me cerveja, pão e queijo.

E' peixe ou carne?

Não comprei fructas.

- (6) 數個の名詞連続して意義の解釋となる場合

Tudo quanto appetecemos na vida, glorias,

honras, riquezas, não nos satisfaz.

- (7) 親等名稱に先てる物主形容詞の前

(葡國に於ては親等名稱の前に冠詞を付するを例とす)

minha mãe,

meus tios,

但し混同の疑ありて特に區別を明にせん爲め人名若くは形容詞に付する場合には冠詞を付す

o meu filho José,

a minha cunhada solteira,

a minha irmã casada,

- (8) 對話者を呼ぶに Senhor, Senhora の次に爵位, 官稱肩書等の尊稱を付する時

Que diz a isto, Senhor Barão?

Toma café, Senhora Condessa?

但し人名の時は冠詞を用ふ Que quer o Sr. João Gonçalves.

- (9) 日を表す數字の前

a (em) 14 de Março.

但し dia なる語を用ふる時は冠詞を付すべし: Aos doze dias do mez de Janeiro. No dia 15 de Novembro.

- (10) 關係代名詞が疑問體に用ゐられたる時

Que queres? Que lhe parece?

注意—O que queres? O que lhe parece? の如く冠詞を付するは誤なり

- (11) 數個連続したる名詞にして互に關聯意義を有する時最初のものみに冠詞を付し他は各々の冠詞を略するも略せざるも適宜とす。

各名詞に冠詞を付せる例

Que cousa são **as** honras e **as** dignidades senão fumo?

省略せる例

De Teoia disse Ovidio que onde ella tinha estado, ja' maduravam searas. E o mesmo podemos dizer **das** planicies, valles e montes donde se levantavam ás nuvens aquelles vastissimos corpos de casas, muralhas e torres.

注意 次の場合には冠詞の重複を要す

- (1) 相互の間に反對せる意義を有する名詞なる時

O dia e **a** noite.

Os vivos e **os** mortos.

as obras boas e **as** más.

- (2) 相互間に等級的意義の連絡を有する時

A necessidade, **a** pobreza, **a** fome, **a** falta de necessario para o sustento da vida é o mais forte, **o** mais poderoso, **o** mais absoluto imperio que despoticamente domina sobre todos os que vivem.

次の場合には絶対に冠詞を省略すべし

(1) 異語同義の時

O fumo, tabaco ou petum é uma planta originaria da America.

A mudança e variedade das linguas do Brazil é sem duvida curiosa.

Os homens compassivos e bons.

As mulheres ajuizadas e prudentes.

(2) 同人に關し數個の名稱を連ねたる時

O rei da Prussia e imperador da Allemanha. O cunhado e socio de Pedro.

冠詞と前置詞 de, a, em, 及び por を併用する法

de と o を合縮して do となる

de と os ” dos ”

de と a ” da ”

de と as ” das ”

a と o ” ao ”

a と os 合縮して aos となる

a	と	a	”	á	”
a	と	as	”	ás	”
em	と	o	”	no	”
em	と	os	”	nos	”
em	と	a	”	na	”
em	と	as	”	nas	”
por	と	o	”	pelo	”
por	と	os	”	pelos	”
por	と	a	”	pela	”
por	と	as	”	pelas	”

第二章

名詞 Substantivo

名詞は有形無形の事物を指示する詞なり、分ちて

固有名詞 Substantivos propios

普通名詞 Substantivos appellativos とす。

固有名詞とは人名地名の如く一事物に限られたるものにして Japão, Brazil の如し; **普通名詞**とは同種類の總ての事物を指名するものなり

menino, cidade, cavallo, rio の如し

(注意) 固有名詞の頭字は必ず大文字とす。

名詞の種類 は次の如し。

實在名詞 (concretos) は具體的に現在するもの又はすべきものと見做さるるもの

cavallo, flôr, ouro, lua の如きものを云ひ

無形名詞 (abstractos) は精神か(性質を其の屬する)物より抽象せるもの即ち

bondade, peso, virtude, sciencia 等の如きもの

集合名詞 (collectivos) は集合を示すもの

casaria, exercito, povo, duzia の如きもの

變體名詞 (improprios) とは形容詞, 動詞, 副詞等の他の詞より轉化せるもの若くは名詞として使用せらるるものを云ふ。

o fumante, o sim, o não, o viver, o fumar, o fallar,

o porque, o pró e contra.

(注意) 凡て動詞の不定法, 不人稱現在は名詞として用ゐらる

單一名詞, 合成名詞 (simples e compostos) 前者は語の形成上單一なるもの後者は二個以上の言葉より成るものを云ふ即ち

二個の名詞より成るもの couve-flor.

一名詞と一形容詞より成るもの herba-doce.

一動詞と一名詞より成るもの saca-rolhas.

一前置詞と一名詞より成るもの sobre-mesa.

二個の動詞より成るもの vai-vem, ruge-ruge.

一動詞と一副詞より成るもの falla-masinho.

三個の異りたる詞より成るもの mal-me-quer

名詞の男女の性, 單複數及び階級

名詞の性 (Genero)

性を定むるに語の意味に依るものと語尾によりて區別さるるものとあり=一般の規則は o に終るものは男性, a に終るものは女性なり。

男性 (masculino)

意味によりて區別さるるもの

(1) 男性の意味明なるもの

homem, pae, filho, cavallo, cão, boi.

(2) 海, 河, 山, 風, 月の名

Baltico, Pacifico; Parahyba, Sena; Himalaya,

Andes; Bóreas, Zephyro; Janeiro, Abril.

(3) 字母, 數字, 樂符等の名

f, x, 4, 5, quattros

語尾に依りて區別さるるもの

(1) o で終る語

filho, espelho, tempo, governo.

(2) ó で終る語

pó, paletó, cipó.

(3) u 又は ú で終る語

ceu, pau, Perú, bambú.

(4) i で終る語

javali, alcali, extasi.

(5) al, el, il, ol で終る語

sal (cal は例外), hospital, ; annel, papel; barril, funil; anzol, sol.

(6) ar, er, ir, or, で終る語

par, assucar, prazer, talher (colher は例外にて女性), porvir, amor, calor, valor (côr, dôr, flôr 等は女性なり)

(7) az, ez, iz, oz, uz で終る語

rapaz, gaz (paz は女性), freguez, mez (rez, tez, torquez, vez 等の例外あり), nariz, aprendiz, (perdiz, cicatriz, raiz, matriz 等幾多の例外あり) arroz, algoz (voz, noz 等の例外あり) capuz, obuz (cruz, luz は女性)

(8) em, im, om, um で終る語。

bem, desdem, parabem, armazem (ordem, nuvem 及び gem で終る語は例外), fim, marfim, carmim, som, tom, dom, jejum, bodum.

(注意) 變體名詞即ち形容詞, 副詞, 動詞, 前置詞よりなる名詞は凡て男性とす。

女性 (feminino)。

意味によりて定るもの

(1) 固有名詞と普通名詞とを問はず女性の意味確然たるもの及び女子の職業等

mulher, menina, costureira, lavadeira

(2) 廣義に於る抽象名詞

pallidez, saude, virtude,

(3) 世界五大洲, 島等の名

Asia, Africa, Europa, Madeira, Formosa.

(4) 科學技藝の名稱

pintura, esculptura, medicina, litteratura.

語尾によりて區別するもの

(1) a にて終る語

casa, mesa, floresta, porta.

但し男子特有の役目, 職業の名 poeta, estadista, democrata, propheta の如き並に希臘語より轉來せる dia, clima, sophá, planeta, cometa, emblema problema, systema, dogma 等は男性なり。

(2) ção, ã, ê, agem, dade に終る語
oração, produção; lâ, manhã; mercê; imagem,
passagem; caridade, cidade,

(3) tude に終る語

longitude, latitude.

男性名詞は語尾の變化により女性となす
ことを得。

(1) 語尾 o を a に置換ふるもの

filho — filha, gato — gata, padeiro — padeira;
porco — porca, brasileiro — brasileira, criado —
criada となすが如し。

(2) ão に終りたる男性名詞を女性となすには

第一は語尾の o を省くもの,

第二は ona に換ふるもの,

第三は ôa に換ふるものの三様なり。

第一の例—irmão — irmã, aldeão — aldeã, orphão
— orphã.

第二の例—chorão — chorona, respondão —
respondana.

第三の例—leão — leôa, furão — furôa.

(但し cão — cadella, ladrão — ladra と云ふ等特別
の變化をなすものあり)。

(3) z. r. 又は l に終りたるものは a を附加ふる
こと。

japonez, japoneza; freguez, fregueza; trabalhador,
trabalhadora; hespanhol, hespanhola.

(但し rapaz の女性は rapariga と變化す)。

(4) u に終りたるものには a を附加ふること

perú, perua.

(5) a 又は e にて終る男性名詞は女性にも共通なり

persa, fluminense, lisboeta.

(注意) 名詞中男性と女性の名稱を本來異にするもの
あり。bode, cabra; cavallo, egora; homem, mulher
等是なり。

又男女性共通のものあり

camello, ganso, rouxinol 等は男性にして女性に

通ず

andorinha, cobra, ostra, panthera, mosca, formiga

等は女性にして男性にも通ず、故に此等の男女性を
區別せんと欲せば macho (雄), fema (雌) なる形容詞
を付すべし。

名詞の數單數名詞を複數となすには s を附加すれ
は足るも尙下の如き規則あり。

(1) ã, a, e, i, o, u, n, y の語尾を有する單數名詞
を複數となすには單に s を附加すべし

irmã-irmãs, alma-almas,

fonte-fontes, pai-pais,

porto-portos, pau-paus,

joven-jovens, tilbury-tilburys の如し。

(2) al, ol, ul にて終りたる時は l を失ひて es を附加す

sal-saes, pharol-pharoes, taful (伊達者)-tafues.

(3) el の時は eis に變ず。

papel-papeis, painel-paineis.

(4) つ il の時は is に變ず。

barril-barris, anil-anis, funil-funis.

(5) m の時は ns に變ず。

fim-fins, ordem-ordens, homem-homens.

(6) r 又は z の時は es を附加す。

mar-mares, flor-flores, prazer-prazeres.

mez-mezes, luz-luzes, 但し caliz (calis 又 calice とも書す) calices となす。

(7) s の時は變化せず單複同形なり。

alferes, cáes, lapis, pires, の如し

(8) ão の時は三様の變化あり。

第一は單に s を加へ ãos となす。

grão-grãos, cidadão-cidadãos,

mão-mãos, irmão-irmãos, の如し。

第二は ães に變ず。

allemão-allemães, cãs-cães,

capitão-capitães, pão-pães,

tabellião-tabelliães の如し

第三は ões に變ずるものにして最も多く用ゐらるる

ものなり。

melão-melões, coração-corações.

operação-operações, acção-acções, の如し。

(9) x に終る語は ce に換て書かるるが故に語尾 e の規則に従ひ ces に變ず。

index 又は indice—indices.

(注意) 若干の名詞は二様の變化を有するものあり

例 aldeão—aldeães—aldeiões,

ancião—anciãos—anciões,

benção—bençãos—benções,

cidadão—cidadãos—cidadões.

普通第一の變化を用ふるものとす

尙ほ名詞中單數のみにして複數を有せず又は是に反して複數のみにして單數なきものあり。

甲の例, mel, sede, fome, christianismo, pejo, clemencia.

乙の例 ventas, ceroulas, calças, cans, trevas, arredores, cocegas.

名詞及び品質形容詞の増大級及び縮少級。

語尾の變化によりて其の意味を擴大し又は縮少するあり即ち増大級と縮少級と名付く。

増大級 *Augmentativo* は意味を増大して言ひ表はすもの縮少級は意味を縮少して言ひ表はすもの

増大級の語尾の主なるものは

ão, ona, aço, az, zarrão, rão 等なり。

縮少級の語尾の重なるものは

inho, zinho, ilho, ito, culo, ulo, óte, ete, óta, eta
等なり。

増大級は時として輕蔑的, 批評的の意を含むことあり, 又縮少級は時として愛撫, 親密等の意を含むことあり。

増大級の例

homem — homemzarrão.

mulher — mulherão — mulherona.

casa — casarão — casão.

rico — ricaço.

velhaco — velhacaz.

縮少級の例

passaro — passarinho.

homem — homemzinho.

vidro — vidrilho.

pequeno — pequenito.

animal — animalculo.

globo — globulo.

rapaz — rapazote.

sabão — sabonete.

ilha — ilhota — ilheta.

以上語尾の變化中最も多く用ゐらるるものは inho
と zinho にして是又一定の規則なきものなれとも稍々

根據とすべきもの次の如し。

(1) ão を ã に終りたる名詞の縮少級は zinho, zinha
となす。

(2) 其他の母韻に終りたるものにして鼻音ならざるものも亦 zinho, zinha 若しくは語尾の母韻を失ひ inho を附加す。

livro — livrozinho — livrinho.

copo — copozinho — copinho.

obra — obrazinha — obrinha.

capote — capotezinho — capotinho.

(3) 子韻に終る語も亦 zinho を附加す。

caraeol — caraeolzinho.

amor — amorzinha.

但し z に終る語は單に inho を加ふべし。

rapaz — rapazinho.

cruz — cruzinho.

(4) oo 及び ca に終る語は o 音を維持する爲, inho, inha を附加する時語尾を qu に變ず

fico — fiquinho.

casca — casquinha.

(5) go 及び ga に終る語は inho, inha を附するとき語尾 o, a を u に變ず

amigo — amiguinho.

prega — preguinha.

第三章

形容詞 Adjectivo

形容詞は名詞の品質, 形容, 數量等を示すものにして名詞に添ふる言葉なり。

形容詞に二種あり

品質形容詞 Qualificativos

指定形容詞 Determinativos

形容詞は性と數とに於て名詞と一致すべきものとす。

casa branca, casas brancas.

rua larga, ruas largas.

paiz formoso, paizes formosos.

minha casa, minhas casas.

品質形容詞 は通例名詞の後に置かるるものなれ共, 前に置かるるも可なるものと, 然らすして意味を異にする場合とあり。

(1) 短き綴の語, 假令は bello, bom の如きは名詞の前後孰れに置かるるとも差支なきも通例は前に置かるるものとす。

(2) 色, 形状, 感覺等を顯はす所のものは名詞の後に置くべし。

mesa redonda, livro verde, agua quente, mulher formosa.

(3) 國又は國民を示す所のものも名詞の後に置くべし。

povo japonéz, nação brasileira.

(4) 固有名詞に配する形容詞は前に置くべし

sublime Goethe, sabio Affonso.

若干の形容詞は名詞の前に置かるる時と後に置かるる時と其意義を異にす。

例	um homem pobre	貧しき人
	um pobre homen	哀なる人
	um novo livro	新著の書
	um livro novo	新しき書
	um grande homem	偉人
	um homen grande	丈高き人

形容詞の性の變化

男性の形容詞を女性となす一般の規則は名詞の夫れと同じなれ共尙ほ次の説明を知るを便宜とす。

(1) a 及び e に終る形容詞は男性女性共通なり

persa, arabe, prudente.

(2) o に終る男性形容詞は女性に於て o を a に變ず

branco—branca, bello—bella,

bonito—bonita, caro—cara,

barato—barata.

(3) u に終るものは女性に於て a を附加す

nu—nua, cru—crua.

(4) ão に終るものは女性に於て語尾 o を失ふ

são—sã, loução (佳美, 派手)—louçã.

(5) vel, al, ul, m, ar, s, iz, oz, は女性の時も變化せず

amavel, geral, azul, commum, jovem, regular, simples, feliz, feroz.

但し m に終る語にても變化するものあり

bom—boa, algum—alguma, nenhum—nenhuma 等是なり

又 l 及び ez に終るものにして國民の名は女性に於ては a を附加す

hespanhol—hespanhola, inglez—ingleza, japonéz—japoneza.

(6) or に終るものは一般の規則に従ひ a を加ふ

comprador—compradora.

adulador—aduladora.

但し次に掲ぐる所の形容詞は男女共通なり

superior, inferior, posterior, anterior, interior, exterior, ulterior, ceterior.

形容詞の數

形容詞の單數を複數になすには名詞に於る規則に準すべきものなれ共尙次の如き注意を要すべきものあり il に終る形容詞にして grave 語勢を有するものは il

を eis に變ず。

fertil—ferteis, facil—faceis, docil—doceis, util—uteis, agil—ageis 等の如し

但し agudo 語勢を有する il 語尾の語は名詞に於る規則に従ふものとす

civil—civis, subtil—subtis, imbecil—imbecis の如し

品質形容詞の比較度

是を三級に分つ

Positivo 常級

Comparativo 比較級

Superlativo 最上級

形容詞が單に名詞の性質、形狀等を示す時は之を常級と名づく

形容詞が他のものと比較をなして示す時は是を比較級と名づく

形容詞が其の性質の高度或は絶對的極度を現はす時は是を最上級と名づく。

比較級 Comparativo。

比較級を分ちて

同等比較級 Comparativo de egualdade,

優等比較級 „ „ superioridade,

劣等比較級 comparativo de inferioridade,

同等比較級は比較の度合が同じき場合にして *tão* と *como* 又は *quanto* なる單語の助を以て形容詞の間に於て組立てる

Elle é *tão* alto como eu.

(彼は私程丈高くある)

José é *tão* estudioso quanto Julio.

(ジョゼはジュリオ位勉強家である)

優等比較級 は比較上優る場合にして *mais*...*que* の助に依て組立らる

Elle é *mais* alto que eu.

(彼は私より丈高くある)

劣等比較級 は比較上劣る場合にして *menos*...*que* の助に依て組立らる

Pedro é *menos* rico que seu irmão.

(ペドロは彼の兄弟程富んで居らぬ)

優等と劣等との比較級は相對的比較の場合

mais...*de*, *menos*...*de* の助字を用ふ

Pedro é o *mais* rico de todos.

(ペドロは皆の中で最も富者である)

(注意) *mais*...*que*, *menos*...*que* の *que* は *do que* となすも可なり

Elle é *mais* feliz *do que* eu.

(彼は私よりも幸である)

又 *mais* と *menos* は *muito* なる副詞を先立てて一

層に意味を強むることを得

Eu sou *muito mais* alto que elle.

(私は彼よりももつと丈高くある)

次の四形容詞は不規則なる比較級の形を有す

bom — *melhor* (より好き)

mãu — *peor* (より悪き)

grande — *maior* (より大なる)

pequeno — *menor* (より小なる)

但し *pequeno* のみは副詞 *mais* を付し *mais pequeno* となすことを得

若干の形容詞は其自身に比較の意義を顯すものあり

即ち *superior* (より高き, より良き)

inferior (より低き, より劣りたる)

posterior (以後の)

anterior (以前の)

等是なり, 而て是等の形容詞は名詞又は代名詞と結付る時は前置詞 *a* を伴ひ *que* を用ふべからず

例へば *superior a mim*,

posterior á minha partida,

anterior ao diluvio.

最上級 Superlativo

最上級は周圍の事情に關せず絶對的なると周圍の物に比較して最も優れたる性状を示す場合との區別に依り

絶対最上級 Superlative absoluto

相対最上級 Superlativo relativo

の二つに分つ

絶対最上級 は次の如き二種の方法によりて作らる

第一 常級形容詞の前に *mui* 又は *muito* か, *extremamente* (極端に), *sobremodo* (非常に, 格段に) 等の語を冠するなり

例—*muito amavel*, *muito bonito*, *extremamente util*
sobremodo grave の如し

第二 常級形容詞の語尾に *issimo*, *issima* を附して作る而して次の規則に依り語尾の變化をなす

- 1.—*r*, *al*, *il* 及び *u* に終る語は單に *issimo* を加へる
regular—*regularissimo*
essencial—*essencialissimo*
agil—*agilissimo*
crú—*cruissimo*
- 2.—*ão* に終る語は *ão* を *an* に變じ *issimo* を附す
são—*sanissimo*.
- 3.—*vel* に終る語は *vel* を *bil* に變じ *issimo* を附す
amavel—*amabilissimo*.
- 4.—*m* に終る語は *m* を *n* に變じ *issimo* を附す
commum—*communissimo*.
- 5.—*z* に終る語は *z* を *c* に變じ *issimo* を附す
capaz—*capacissimo*.
- 6.—*e* 及び *o* に終る語は是等の語尾を失ひ *issimo* を

附す

triste—*tristissimo*.

lindo—*lindissimo*

但し特別の變化をなす所謂不規則的なるもの數多あり, 其の主なるもの次の如し。

amigo—*amicissimo*.

antigo—*antiguissimo*.

aspero—*asperrimo*.

celebre—*celeberrimo*.

difficil—*difficilimo*.

doce—*dulcissimo*.

facil—*facilimo*.

fiel—*fidelissimo*.

frio—*frigidissimo*.

geral—*generalissimo*.

humilde—*humilissimo* 又 *humilimo*.

livre—*liberrimo*.

misero—*miserrimo*.

nobre—*nobilissimo*.

pobre—*pauperrimo*.

salubre—*saluberrimo*.

similhante—*similimo*.

又是等不規則なるものにして屢々規則的變化に作られ即ち二様の形を有するものあり。

amigo—*amiguissimo*.



antigo—antiguissimo.

aspero—asperissimo.

celebre—celebrissimo.

(注意) 若干の羅典語系形容詞は其の語自ら最上級の意味を有す

baixo—infimo.

grande—maximo.

pequeno—minimo.

bom—optimo.

mau—pessimo.

alto—summo 又 supremo.

但し是等の最上級は時として規則的に下の如く形造らるることあり

baixissimo, grandissimo,

pequenissimo, bonissimo,

altissimo, malissimo の如し

相対最上級 は比較級に定冠詞を冠し de を附するより成る

o mais sabio dos homens

(衆人の中で最も博識なる者)

o mais rico de todos.

(總の中で最も富たるもの)

指定形容詞 Adjectivo determinativo.

指定形容詞は名詞の品質に關せず其の數, 位地, 境遇等を示す所の語にして次の如く分類す

物主形容詞 Possesivo.

指示形容詞 Demonstrativo.

數形容詞 Numeral.

不定形容詞 Indefinido.

關係形容詞 Relativo.

物主形容詞 は所有, 附屬の關係を示すものにして所有格と被所有格との人稱, 性, 數により次に示す如く變化す。

		被 所 有 格				
		單 數		複 數		
		男 性	女 性	男 性	女 性	
所有格單數	一人稱	meu	minha	meus	minhas	私ノ
	二人稱	teu	tua	teus	tuas	汝ノ
	三人稱	seu	sua	seus	suas	彼ノ
所有格複數	一人稱	nosso	nostra	nossos	nossas	我等ノ
	二人稱	vosso	vossa	vossos	vossas	汝等ノ
	三人稱	seu	sua	seus	suas	彼等ノ

(注意)

1. 二人稱は習慣上近親者友人等親密の間柄若くは目下の者に對して用ゐられ其他の他人に對しては

senhor とか vassa mercê とかの敬語を用ふるか故に被所有格なるものも三人稱のものを用ふることとなり居れり。

2. meu, teu, seu の語尾 u は o に換へて meo, teo, seo と記するも可なり。

3. 葡語にては物主形容詞に屢々冠詞を附して記すことあり。

o meu livro, a nossa casa の如し

如上記すか如く二人稱三人稱同一なる爲混同の恐ある時は三人稱は d'elle, d'ella 等を用ふべし

o livro d'elle.

指示形容詞

指示形容詞は話題に入る名詞を指定するものにして次の如きものなり。

單 數		複 數	
男 性	女 性	男 性	女 性
este	esta (此レ)	estes	estas (此等)
esse	essa (其レ)	esses	essas (其等)
aquelle	aquella (アレ)	aquelles	aquellas(アレ等)

則ち este は話す人に近きものを指し esse は對話者に近きものを指し aquelle は話す人話し掛けらるる人

に遠ざかりたるものを指し示すなり。

是等指示形容詞の前に前置詞 de の來る時は d'este, d'aquelle 又は d'este, d'esse, d'aguelle と收縮し, em の來る時は n'este, n'esse, n'aquelle と收縮す。

數形容詞

數形容詞は數量或は列序の意を附して名詞を指定するものなり, 分ちて

基本數 Cardinal.

序次數 Ordinal. とす

前者は數を示すもの後者は順序を示すものなり

基本數形容詞 は次の如し

um, uma	(1)	doze	(12)
dois, duas	(2)	treze	(13)
tres	(3)	quatorze	(14)
quatro	(4)	quinze	(15)
cinco	(5)	dezeseis	(16)
seis	(6)	dezesete	(17)
sete	(7)	dezoito	(18)
oite	(8)	dezenove	(19)
nove	(9)	vinte	(20)
dez	(10)	vinte e um	(21)
onze	(11)	vinte e dois	(22) etc.

trinte	(30)	quatrocentos,	
quarenta	(40)	quatrocentas	(400)
cincoenta	(50)	quinhentos,	
sessenta	(60)	quinhentas	(500)
setenta	(70)	seiscentos, seiscentas	(600)
oitenta	(80)	setecentos, setecentas	(700)
noventa	(90)	oitocentos, oitocentas	(800)
cem	(100)	novecientos, novecentas	(900)
cento e um, etc	(101等)	mil	(1,000)
duzentos, duzentas	(200)	dez mil	(10,000)
trezentos, trezentas	(300)	cem mil	(100,000)
		milhão	(1,000,000)
		bilhão	(1,000,000,000)

(注意)

1.—以上示せる如く基本数形容詞の男女性の變化あるものは單に um と dois 及び cento の三個にして其他は變化せず

2.—壹百の數を記すに cem と cento との二様あれ共若し此の數字の後に直に名詞の來る時は其間形容詞の有無に關せず常に cem を用ゐる cento を用ゐず

cem soldados, cem homens,

cem valorosos soldados.

而して百の次に他の數字ある時は是に反して cem を用ゐずして cento を用ゐ

cento e dois, cento e cinquenta homens

となし cem e dois となすべからず

3.—mil (千) の前に cem (百) が來る時は cento を

用ゐず cem を用ゐ

cem mil soldados

但し mil と cem の間に他の數字ある時は cento を用ゐ

cento e um mil (101,000)

4.—cento, mil, milhão 等は百位, 千位, 萬位等の意味にて名詞として取扱はる從て此場合には補語を受けるには前置詞 do を採り又他の數字と共に用ゐらるる際は接續詞を採ること第二第三に記せる例に見るが如し

um cento de castanhas.

5.—單位と十位 70 と 2 との如き, 百位と單位, 百位と十位 100 と 3 又は 100 と 20 の如き, 及び百位十位單位の三位より成立たる數は各位の間に接續詞 e を置くべし

setenta e dois.

cento e tres.

cento e vinte.

trezentos e vinte e cinco (325)

sete centos e quarenta e dois (742)

6.—三位以上より成る時は千位と百位の間には接續詞 e を省くこととす

例—seis mil quinhentos e quarenta (6540)

mil seiscentos e seis (1606) の如し

但し以上の場合百位が零なる時假令は 5042 の如き

時は千位と十位との間に e を置き cinco mil e quarenta e dois と書す, 更に十位も零にして千位と単位のみなる時も亦同じ即ち 6006 は seis mil e seis と書す

7. 一長き數字にて三數字を一位取とせるもの二位取以上に涉る時は各位取の間に接續詞 e を置かずして句點「ビルグラ」を附す。

但し一位取内の百位十位單位の各間には e を置くべきこと前に述るか如し

例せば 875, 403, 125 なる數字は

oito centos e setenta e cinco mil e tres mil, cento e vinte e cinco と記すべく若し最後の位取か十位と單位を缺き 3.100 と云ふ如き場合は千位と百位の間に e を置き tres mil e cem と記すべし。

序次數形容詞 は次の如し

Primeiro—a	第一番目の
Segundo—a	第二番目の
Terceiro—a	第三番目の
Quarto—a	第四番目の
Quinto—a	第五番目の
Sexto—a	第六番目の
Septimo 又は Setimo—a	第七番目の
Oitavo—a	第八番目の
Nono—a	第九番目の
Decimo—a	第十番目の

Undecimo—a 又は decimo—a primeiro—a	第十一番目の
Duodecimo—a 又は decimo—a segundo—a	第十二番目の
Decimo terceiro	第十三番目の
Decimo quarto	第十四番目の
Decimo quinto	第十五番目の
Decimo sexto	第十六番目の
Decimo septimo	第十七番目の
Decimo oitavo	第十八番目の
Decimo nono	第十九番目の
Vigesimo	第二十番目の
Vigesimo primeiro	第二十一番目の
Trigesimo	第三十番目の
Quadragesimo	第四十番目の
Quinguesimo	第五十番目の
Sexagesimo	第六十番目の
Septuagesimo	第七十番目の
Octagesimo 又は Octogesimo	第八十番目の
Nonagesimo	第九十番目の
Centesimo	第百番目の
Centesimo primeiro	第百一番目の
Centesimo decimo	第百十番目の
Centesimo vigesimo	第百二十番目の
Centesimo vigesimo primeiro	第百二十一番目の

Centesimo trigésimo	第百三十番目の
Duzentesimo	第二百番目の
Trezentesimo	第三百番目の
Quatrocentesimo	第四百番目の
Quinhentesimo	第五百番目の
Seiscentesimo	第六百番目の
Setecentesimo	第七百番目の
Oitocentesimo	第八百番目の
Novescentesimo	第九百番目の
Millesimo	第千番目の
Millionesimo	第百萬番目の

序次數も亦一般の規則に従ひ名詞の性と數とに一致すべし。

(注意)

國王の名第一世第二世の如き稱號は羅馬數字を用ふるを例とす、而して其人名の後に添ふべし

Napoleão I. Don Pedro II.

日附には基本數字を常に用ふるも一日のみは primero の略字 1^o を用ゆ、但し本字を以て記す場合には月の初日は primeiro と書し二日以後の日附は dois, tres 等と記すべし。

不定形容詞

不定形容詞 は漠然と名詞の數量、性質等を指し示す詞なり即ち

algum, alguma	或る、若干の
nenhum, nenhuma	ドノ……モ (否定)
mesmo, mesma	同じの
todo, toda	總ての、各自の
outro, outra	他の
muito, muita	多くの
não muito, não muita	多からざる
pouco, pouca	少さき
não pouco, não pouca	少なからざる
tanto, tanta	夫れ丈多くの
quanto, quanta	幾許の
certo, certa	或る
um, uma,	或る

複數は一般規則的に單に s を加ふ

bastante	充分の	} 兩性共通
cada	各の	
tal	此の如く	} 複數なし
qual	如何なる	} 兩性共 quaes
qualquer	或る、何かの、任意の	
mais	より多くの	} 性數なし
menos	より少くの	

〔註解〕 以上 algum より um迄の語は皆其關係する名詞と性、數を共にす。

mais と menos は名詞の後に來る時は副詞にして形容詞に非す。

tanto は

1. 一名詞として用ゐらるゝことあり其場合には夫れ丈はの數量と云ふ語なり

2. 一定數の後に附せらるる時假令は cinquenta (50) e tantos annos と云ふ如き場合は餘りを意味し五十餘歳と譯す。

todo は

1. 形容詞として名詞の前に置れ總體の意味を有する時は定冠詞を間に置くべし

todo o amor 全幅の愛情

toda a fortuna 全部の財産

toda a cidade 全市

2. 時として各自の意味を有することあり此場合には普通冠詞を附せざるも附するも可なり

todo homem 各人

toda casa 各戸

todo o homem

但し此意味に於る複數名詞の時は必ず冠詞を付すべし todos os homens.

3. 名詞若くは代名詞の後に置れたる時は常に全體の意味を有す

a casa toda は toda a casa に同じ

4. 全體を意味する名詞として單數且つ男性にのみ用ゐらる

o todo desta vista 此の全景

Nenhum, nenhuma.

及び其の複數は否定語なるが故に動詞の前に來る時は其の動詞を否定形とし não を添ふべからざるも若し動詞の後に來る時は添へざるべからず。

nenhum amigo tenho.

não tenho nenhum amigo.

Algum, alguma.

は普通の場合即ち名詞の前に置るる或るとか若干とかの意義を示すも若し否定動詞を伴ふ時は名詞の後に置れ反對に 何人, ナンニモ と云ふ否定形となる。

tenho algum dinheiro.

não ha remedio algum.

não encontrei pessoa alguma.

不定形容詞は其の關する名詞か二個以上なる時は假令是等名詞か性を異にするとも最初に置れたる名詞の性と數とに一致せしめ次に至る名詞の前には反覆し置くべからず。

todo homem e mulher.

todas as nações e paizes.

são os mesmos chefes e soldados.

關係形容詞

關係形容詞は先行詞として前に言ひ顯されたる名詞と補足文の主語との關係を結付る所の間接補語とも云ふべきものにして即ち

cujo, cuja, cujos, cujas と云ふ

(其人の, 其物の)

uma arvore cujo tronco é grosso.

o livro cujas paginas são numeradas.

其他 que, qual, quaes, quem 等あり孰れも其關係形容詞なると同時に關係代名詞なるが、是等は名詞と一致して變化すべき形容詞の原則に據らざる故に代名詞の部に入るることとせり。

形容詞の用法に就て

形容詞は名詞又は代名詞の性と數とに一致すべきこと叙上の如し故に形容詞が同性にして多數の名詞に關する時は矢張其の性數を同くするも、例へば

pae e filho honrados.

mae e filha bonitas.

若し是等名詞又は代名詞が性を異にするときは男性複數とす

o marido e a mulher são generosos.

elle e ella são muito attenciosos. の如し

性を異にする數個の名詞に對する共通の意義の形容詞を附する時は夫等名詞の前に置かるる時は最初の名

に一致せしむ。

o verdadeiro amor e amizade 又は

o amor e a amizade verdadeira.

Paris tem bonitas ruas e passeios 又は

Paris tem ruas e passeios bonitos.

一名詞が單數にして他の名詞が複數なる時其の共通形容詞は複數の方の名詞の性數に一致せしむ。

os dinheiros e a fazenda erão muitos 又は

as fazendas e o dinheiro erão muitas.

não são nossos poderes e liberdade tão limitados.

形容詞が一以上の名詞に共通して用ゐらるる時は單に最初の名詞に關してのみ附し其他の名詞の前には附す可からず。

boa cama e mesa.

o nosso estudo e applicação.

alto, largo, comprido 等の形容詞を名詞様に用ゐたる時は前置詞 de を先立たすべし。

um palmo de largo,

dois pés de comprido,

3 pés de alto.

斯の如き場合には可成名詞を用ふるを可とす。

tres palmos de largura.

dez pés de comprimento.

seis pés de altura.

但し形容詞を其儘に用ゐんとし

largo de um palmo,
comprido de 2 pés,
alto de 3 pés,

と書すことは絶対に不可なり。

形容詞の集合詞は常に後に來る語のみ性と數との變化を受るものとす、而して前に來る語は男性單數とす。

tropas anglo-francezas,
troncos meio-seccos,
ostras fresco-abertas,

第四章

代名詞 Pronome

代名詞とは名詞の重複を避くる爲め其の代用をなす語なり、分ちて

人稱代名詞 Pessoaes.
指示代名詞 Demonstrativos.
物主代名詞 Possessivos.
關係代名詞 Relativos
疑問代名詞 Interrogativos.
不定代名詞 Indefinitos.

とす。

人稱代名詞

人稱代名詞は人稱の代りに用ゐらるる語なれ共又事物をも代用す、而して話頭人稱を三つに別ち

第一人稱 primeira pessoa.
第二人稱 segunda pessoa.
第三人稱 terceira pessoa.

とし第一人稱は話す所の者、第二人稱は話し掛けらるる者、第三人稱は話題に上る者又は事物を指す、即ち

	單數	複數
第一人稱	eu (私)	nós (私等)

第二人称	tu (汝)	vós (汝等)
第三人称	elle (彼)	elles (彼等)
	ella (彼女)	ellas (彼女等)

〔注意〕 第二人称単数は習慣上親近の間柄、朋友若しくは目下の者に對してのみ用ゐ普通他人に對しては o Senhor, a Senhora, Vossa Mercê 等の敬語を代名詞様に用ゆ尙、下に掲ぐる語は普通に人称代名詞に代用するものなり。

Você 汝

Vosmecê 又は Vossa mercê 貴方(アナタ)

Vossa Senhoria 貴下

Vossa Excellencia 閣下

Vossa Majestade 陛下

以上は男女共通なり而して是は事實上對話者なれば二人稱に當る筈なれ共、文法上第三人稱に入るものとなす是等に關する動詞の如き又第三人稱に當るものを用ふべし

(略字)

Sr. 又は Sñr.

Sra. 又は Sñra.

Vce. Vmce.

V. S. 又は V. Sa.

V. E. 又は V. Ex^a.

V. M.

人称代名詞の變化 Declinação dos pronomes.

第一人称		
格	數	複數
主格 Nominativos (ハ, ガ格)	單數 eu	複數 nós
對格 Accusativos (ヲ格)	} me	} nos
與格 Dativos (=格)		
第二人称		
主格	單數 tu	複數 vós
對格	} te	} vos
與格		
第三人称		
主格	單數 elle, ella	複數 elles, ellas
對格	} o, a. } se	} os, as. } se
與格		

〔注意〕

(1) me, te, se は de, a, por, sobre, contra, para 等の前置詞を先立てたる時は me を mim, te を ti, se を si に變化す, nós と vós は變化せず。

de mim, de ti, de si, de nós, de vós.

a mim, a ti, a si, a nós, a vós.

por mim, por ti, por si, por nós, por vos.

但し前置詞 *com* を伴ひたる助格の時のみは *mi* を *migo*, *ti* を *tigo*, *se* を *sigo*, *nós* を *nosco*, *vós* を *vosco* に變化し *com* と結ひ合ひ一字となす。

commigo 私と *comnosco* 我々と

comtigo 汝と *comvosco* 汝等と

comsigo 彼と *comsigo* 彼等と

但し此格の代名詞にても動詞の主格に關係を有せざる場合は *com elle*, *com ella* 等になす, 例

Vi teu filho com ella; Fomos com elle の如し

(2) 動詞の主格にあらずして従格なる *elle*, *ella*, *elles*, *ellas* の前に前置詞 *de* 又は *em* の來る時は *de* を *d'* (「アホストロフ」符號) とし *em* を *n'* とし *d'elle*, *d'ella*, *n'elle*, *n'ella* となす此場合「アホストロフ」を省き續けて *delle*, *della*, *nelle*, *nella* となすも可なり。

(主格の場合は以上の如く合縮するを許さず)

(3) *me*, *te*, *nos*, *vos*, *o*, *a*, *os*, *as* は時として *eis* (是なり, 此所に在りの意義) を先立つることあり, 此場合 *me*, *te*, *nos*, *vos* の時は連線 (-) を以て結び合せ

eis-me, *eis-nos* の如くなし

o, *a*, *as* の時は *eis* の *s* を *l* に替へ同じく連線を以て結び合せ

eil-o, *eil-a* の如くす。

(4) 人稱代名詞には屢々意義を強むる爲め *mesmo*,

mesma なる語を添ふることあり

eu mesmo, *eu mesma* 私自身

tu mesmo, *tu mesma* 汝自身

elle mesmo, *ella mesma* 彼自身

nós mesmos, *nós mesmas* 我等自身

等の如く用ゆ

尙是等 *mesmo*, *mesma* 及び其複數は *mim*, *ti*, *si*, *nós* *vós* 等にも添ふることを得

de mim mesmo, *de si mesmo*.

por mim mesmo, *por si mesmo*, の如く

又 *commigo*, *comtigo*, *comsigo* 等にも附せられ *commigo mesmo*, *comtigo mesmo* となす。然れ共 *comnosco* と *comvosco* は同様になす可らず, 此場合には *nós* と *vós* を用ゐ *com* を離して *com nós mesmos*, *com vós mesmos* となすべし。

eu, *tu*, *elle* 等に意義を強むる爲に *cá* を第一人稱に付し *lá* を其他の人稱代名詞に付する事あり。

Eu cá não quero.

Nós cá havemos de dizer a verdade.

Elle lá sabe o que é.

(5) 間定詞の次に直定詞の *o*, *a*, *os*, *as*, が並び來る時は次の如く合縮す。

me の次に來る時は *m'o*, *m'a*, *m'os*, *m'as*.

te „ „ *t'o*, *t'a*, *t'os*, *t'as*.

lhe „ „ *lh'o*, *lh'a*, *lh'os*, *lh'as*!

nos の次に來る時は nol-o, nol-a, nol-os, nol-as.
 vos ,, ,, vol-o, vol-a, vol-os, vol-as.
 とすへし。

指示代名詞

は話して居る所の人又は事物を示しながら其の名詞の代用をなす。

男性		女性		
單數	複數	單數	複數	
este	—estes	esta	—estas	(此ノモノ)
esse	—esses	essa	—essas	(其ノモノ)
aquella	—aquellas	aquella	—aquellas	(彼ノモノ)
o	—os	a	—as	(モノ, 其ノモノ)

中性 (複數ナシ)

isto (是ノモノ), isso (其ノモノ), aquillo (彼ノモノ)
 此の代名詞は行爲或は状態に付き多少明かに定まりたるものを指示するに用ゆ。

以上の代名詞には屢々關係代名詞の que (トコロノ) を添ふることあり。

este	} que.	esta	} que
esse		essa	
aquella		aquella	
o		a	

isto que, isso que, aquillo que.

〔註解〕

(1) 斯の如く este, esse, aquella 及び其の女性と複數は指示形容詞と同一の形にして又 o, a, os, as は冠詞たり, 人稱代名詞たり更に又指示代名詞ともなる, 今此等の區別を知るには次の如く心得て可なり。

este, esse 等形容詞の場合は必ず名詞に先立ちて置かるること又指示代名詞の時は直接動詞の主格となる o, a 等が冠詞なる時は名詞の前に置れたる時なれ共關係代名詞 que 若くは de を伴ひたる時は指示代名詞となる。

(2) este, esta, isto は話す人又は書する人に近きものを指し, esse, essa, isso は話し掛けらるゝ人又は書かるる人に近きものを指し, aquella, aquella, aquillo は右兩者より遠さかりたる事物を指すものなること形容詞に於けるが如し。

(3) 代名詞の o, a, os, as は前置詞 a, de, por, em の後に次て來る時は冠詞の時と同しく合縮せらる。

- do d'elle.
- na do senhor.
- pelo que digo.

(4) este, esse, aquella, isto, isso, aquillo も亦前置詞 de 又は em の來る時合縮して形容詞の時と同じく de の e を省くか若くは「アホストロフ」に替ふるか, em を n 又は n' に替ふべし。

d'este 又は deste.

n'aquelle 又は naquelle.

但し isto, isso, aquillo と em と合縮する時は nisto, nisso, naquillo となし, 「アホストロフ」を用ふへからず, 尙又此等代名詞か動詞の主格たる場合は全々合縮するを許さず。

例せば em isto acabando (其の事が終りたる時) の如し。

(5) aquelle, aquella, aquillo, etc. の前に前置詞 a の來る時は a に agudo 符號を冠し前置詞の a を省き áquelle, áquella, áquillo とす。

物主代名詞

物主代名詞は所有の意を含みて名詞の代用をなすものなり。

所有者が一人の時:

人稱	數		數		性
	單	數	複	數	
	男	女	男	女	
第一人稱	o meu	a minha	os meus	as minhas	我モ ノ
第二人稱	o teu	a tua	os teus	as tuas	汝モ ノ
第三人稱	o seu	a sua	os seus	as suas	彼モ ノ

所有者が二人以上の時:

第一人稱	o nosso	a nossa	os nossos	as nossas	我モ 等ノ
第二人稱	o vosso	a vossa	os vossos	as vossas	汝モ 等ノ
第三人稱	o seu	a sua	os seus	as suas	彼モ 等ノ

以上示せる如く物主代名詞は物主形容詞と同形にして是等に其の代用せる名詞の性及び數に應じたる定冠詞を先立つるものと然らずして單獨に物主代名詞たる場合とあり。

前者は代名詞の意義か他のものに比較關係を有し相對的の場合にあり, 後者は之に反して絶對的の場合なり。

第一の例—a minha é preferível á sua;

o nosso é de melhor qualidade que
o d'elle.

第二の例—De quem é este chapéo? E' meu;

Estas casas são nossas.

前に述べたる如く人稱代名詞の二人稱は Vm^{ce}, Vm^{ces}, Sr., Sra., V. Sa. 等の敬語を用ゆるが故に此の場合には o seu, a sua 等の代りに其の所有者及び所有物の性數に一致して下の如くなすべし。

o 又は a de Vm^{ce} 貴方のもの

o 又は a de Vm^{ces} 貴方等のもの

- o 又は a do Sr. 貴君のもの
- o 又は a da Sra. 貴方のもの
- o 又は a dos Srs. o 又は a das Sras;
- os 又は as de Vm^{ces}; os 又は as de Vm^{ces}, etc.

三人稱は二人稱と同一なるが故に若し混同の恐れある場合を明に區別せんとせば三人稱 d'elle(彼の) d'ella(彼女の)を用ゐ次の如く形造る

- | | | |
|----|---|---|
| 單數 | { | o d'elle, a d'elle, o d'elles, a d'elles. |
| | | o d'ella, a d'ella, o d'ellas, a d'ellas. |
| 複數 | { | os d'elle, as d'elle, os d'elles, as d'elles. |
| | | os d'ella, as d'ella, os d'ellas, as d'ellas. |

關係代名詞

(一に形容代名詞とも云ふ,) 或る文法家は *adjectivos conjunctivos* 接續詞的形容詞の部に入れたり

關係代名詞は語句の一部を代用せる名詞又は代名詞に連結せしむるに使用する詞なり。關係代名詞に先立ちて之と直接の關係を有する即ち代用せる名詞を其の先行語 (*antecedente*) と云ふ。

關係代名詞は下の如し

- quem 其の人
- que 其のもの又は人
- qual, quaes (複數) 其のもの又は人
- cujo, cuja, cujas, cujos 其の物の又は其人の

Quem は單に人にのみ用ゐられ前置詞を先立つる時は直接補語となり單獨の時は主語となる。

O homem a quem fallamos.

Foi elle quem trouxe esta noticia.

Que は人又は物に用ゐられ常に其の先行語たる名詞又は代名詞の直ぐ後に置かる。

O homem que fallou.

Que は主語ともなり、定詞ともなる

第一の例: O canivete que está em cima da mesa.

第二の例: Dê-me o relógio que o Sr. acaba de comprar.

Que は o qual, as quaes を以て代ふる能はざるものなれ共その時は代名詞に非ず接續詞と心得ふべし

Qual は人又は物に用ゐられ常に先行語の性及び數に應ずる定冠詞を先立つ、

Qual は que の代用をなすものにして文意の曖昧を防ぐ爲めに使用せらる、

Qual は先行語と離れ來る時上述の如く que に代るものなれ共又直接先行語に次で置かるることもあり。

A desobediencia dos Israelitas ás ordens de Deos, a qual é materia (永久の不平) continua das queixas de Moysés.

Eu estive com irmão da Sra.—, o qual acabou de chegar do Brazil.

Um homem, o qual eu vi.

Os amigos aos quaes mandamos as fructas.

cuj, **cuja** etc. は接續的形容詞にして代名詞よりは寧ろ形容詞の部に屬するものなる事は既に述べたるが如しと雖或る文法家は是等を代名詞の内に列擧せるが故に茲に加へ置くこととせり。

疑問代名詞

疑問代名詞は問に使用するものにして下の如し。

quem 誰が, 誰で

que 何か, 何で, 何?

qual 何れの人, 何れの物, ……内のどれ

quem は不變化語にして人に用ゐらる。

主語として用ゐらるる時の例:

Quem vem lá? Quem somos nós?

Quem é o dono desta casa?

直接補語として用ゐらるる例:

A quem devo escrever?

Com quem fallou?

Para quem são estas flores?

Por quem foi feita esta lei?

De quem falla o Sr.?

Que は不變化語にして人又は物に用ゐらる又 **que** は代名詞を先立て **o que** となすも同じ。

主語たる時の例:

Que devo fazer? 又は O que devo fazer?

Que fará Vm^{ce}? 又は O que fará Vm^{ce}?

補語たる時の例:

De que viveremos?

Com que me pagaras?

Em que pensa o Sr.?

Qual は複数を **quaes** となし人と物とに用ゐらる。

主語たる時の例:

Qual é o seu chapéo?

Qual dos Srs. quer vir commigo?

Quaes são as suas luvas?

Quaes serão as suas desculpas?

補語たる時の例:

De qual dos dois falla o Sr.?

Para qual dos seus filhos compra o Sr. este livro?

不定代名詞

不定代名詞は漠然或は概括的に人又は物を指示するものなり。

此代名詞には性數の變化を受けるものと單に性が數の一方のみの變化あるもの及び全く變化なきものとあり、重に使用するもの下の如し。

性數の變化するもの:

um, uns; uma, umas 或るもの, 若干のもの,

algum, alguns; alguma, algumas 或るもの, 若干のもの

outro, outros; outra, outras. 他のもの

o mesmo, os mesmos; a mesma, as mesmas 同じもの

todo, todos; toda, todas 皆

muito, muitos, muita, muitas 多くのもの

pouco, poucos; pouca, poucas 僅かのもの

nenhum, nenhuns; nenhuma, nenhuma 一つも, 何れも (否定語)

数のみ變化するもの:

tal, taes かようなる者

qualquer, qualesquer 何人も, 誰でも

複数のみ用らるるものに

varios, varias 種々なるもの

ambos, ambas 兩方

單数のみ用らるるもの:

cada um, cada uma 銘々, 各物,

變化せざるもの:

cada qual 各自

algo 或るもの, なにか

alguem 何人, 誰か

ninguem 或る人, (否定)

nada 何も (,,)

outrem 他の人,

tudo 全部

se 自身

複合のもの:

um e outro, uma e outra;

uns e outros e umas e outras 兩方のもの, 相方

um ou outro, uma ou outra;

uns ou outros, umas ou outras どちらか,

nem um nem outro, nem uma nem outra;

nem uns nem outros; nem umas nem outras ど

ちらも (否定)

fulano e sicrano, fulana e sicrana 某々

〔注意〕

ninguem, nenhum, nem um nem outro, nada 等は動詞の前に置れたる時は否定形の働をなす故動詞は其儘にして否定文となるも若し動詞の後に置れたる時は動詞を否定形になすを要す。

ninguem pôde dizer,

não vejo ninguém,

nenhum d'elles virá,

não virá nenhum d'elles.

um e outro, nem um nem outro は其の關係動詞を單数に用ふるも複数に用ふるも隨意なり。

um e outro é bom

um e outro são bons.

代名詞

se は

第一 再歸動詞の第三人稱に用ゐられ再歸代名詞と名けられ「己れ自身」を意味し、

第二 動詞の働を受動的に轉化する役目となりて不定代名詞となり「何々さるる」と云ふ意味に當り、

第三 は自動詞と結付られて其動詞の主格の動作が任意に行はるるを意味し若くは文飾として附せられ又は作詩法上の必要より置かるるも何等の意味をなささるることもあり。

第一の場合 例せば ferio-se は自ら己を傷けたることになり、又動詞の主格が二人なる時は「相互」を意味し、

os dois amigos abraçaram-se は「二人の朋友は互に抱擁せり」となるなり。

第二の場合 例へば fizeram-se casas と云へば「家が造られたり」にて主格 casas は動詞の働をなすものにあらずして se 代名詞が補語として fazer 動詞を受動に轉化させる役目をなすなり、

又 diz-se que teremos guerra と云へば「戦争が始まると云はれる」にて恰も Diz-se は英語の it is said that……に當るなり。

第三の場合 例へば elle se foi ao Brazil と云へば「彼は伯國に去れり」と云ふ意味にて se を省くも同じ意味なれ共 foi のみなれば「行きし」となり此間暗々

裡に任意に出たるを示すなり、又 foi se embóra と云へば「彼方へ去れり」なれ共 foi embóra にては「彼方へ行けり」と云ふ漠然たる意味となる。

以上の例に依りて se は決して動詞の主格とならざることを知るべし、畢竟 se は主格と動詞の仲介者にて補語として動詞の働を助くる役目をなすものと思へば可なり、故に se を以て文を始むる能はず se faz とか se diz にては意味をなさず faz-se, diz-se となさざる可からず而して此場合には常に連線を以て動詞に結付るを要す、但し他の言葉が前に來る時例へば sempre se faz, ao que se diz の如き場合には一般の規則に準し代名詞を動詞に先立つるものと知るべし。

再歸的代名詞と不定代名詞との區別を簡単に知る方法は前者は主格が動詞の働をなし後者は受動的に是を受繼にありて主格の働にあらず、更に前者は a si mesmo を附加して意味を完結するも後者は然らず例ば Pedro ferio-se と云へば ferio-se a si mesmo として意義明かなれ共 fizeram-se casas の場合に a si mesmos を付する時は「家其物が自身に出來上る」かの如くなり意味をなさず。

代名詞の重複して用ひらるる場合

語の意義を強むる爲め若くは對照の意義を一層明にする爲に me, te, se, lhe, nos, vos, lhes 等の後に a mim, a ti, a si, a elle, a ella, a nós, a vós, a elles, a ellas 等

を重複に添加することあり

例: Disse-m'ó a mim.

Parece-me a mim.

Pretendem enganar-nos a nós.

Digo-lh'ó eu ao Sr.

Deram-t'ó a ti, e não a mim.

第一の例にて disse-m'ó と云はゞ「彼又は汝は其の事を我に語りたり」にて m'ó に於る me は即ち a mim なるを更に意義を強むる爲に重複するなり又

第五の例にて deram-t'ó は「彼は其を汝に與へたり」にて意味明瞭なるに係はらず a ti と重複せるは não a mim 「我には然らず」と對比して意義を強むる爲めにして「而も汝に」と附加せるなり。

代名詞を省略し得る場合

文の要素たる動詞の形又は前後の関係より主格は何物なるや明なる時は eu, tu, ella, nós, vós, elles, ellas 等の人稱代名詞は省略せらるるも可なり

例 trabalho dia e noite と云ふ文にて trabalho なる動詞は私が働くと云ふ語なれば主格は私なること明にして eu なる代名詞を略するとも差支なし

但し次の場合には代名詞を現はす要あり:

(1) 一人稱單數と三人稱單數に於ける如く動詞の形が同一なる時例へば

eu 又は elle diria.

se eu 又は elle souber の如し。

(2) 一句中二人以上の主格者が反對の動作をとり對照的に言ひ顯はさるる時例へば

eu trabalho e ella dorme;

eu estude e o Sr. diverte. の如し。

(3) 性を異にせる二人の主格ありて其の動詞の働が孰れに及ぼすか判然せざる時、例は

fui visitar o marido e a mulher; está bastante doente と云ふ時は está の主格は elle marido なるや ella mulher なるや判然せず故に此場合には先づ elle なるや ella なるやを知るを要し elle 又は ella está bastante doente とすべし。

代名詞 me, te, lhe 等は時として其の本質を失ひ感情、希望若くは關係等を間接に是等代名詞を以て代用せる人の感念又は關係を暗々裡に含める意を示す爲めの補語として用ゐらるることあり。

例: Aqui me morreo um amigo.

此の例に於て me は我に取りては悲事であると云ふ意味を含むなり。

Quem lhe morreo?

此の例に於る lhe は汝の關係者と云ふ意を含み

Quem me dará uma cóça naquelle tratante!

此の例に於る me は希望の意を含み何人か彼の横道者を擲り懲しめる者は無いであらうか、あれば宜いと

云ふ己の希望を暗示せるなり。

代名詞の位置

主格に用ひられたる時

(1) 動詞が直接法及び条件法なる時は主格代名詞は常に動詞若くは助動詞の前に置くべし。

Eu duvido muito.

Nós devemos partir.

Elle teria vindo.

但し強義の爲め又は語調の爲め文が動詞に始りたる時は其の後に置かるることあり。

Era elle o meu melhor amigo.

Iremos nós com elle.

(2) 疑問文には主格代名詞は動詞の後に置かるるを普通とし Quer o Sr. vir commigo? の如くなすも會話にては動詞に先立つるも可なり、但し此の場合には語尾の音調を張り上ぐべし。

(3) 命令法又は現在分詞主格の示されたる時は動詞の後に置くべし。

Dize-tu.

Não digas-tu.

Façamos-nós.

Indo eu ao Brazil visitarei a sua fazanda.

(4) 動詞が不定法若くは分詞にして前置詞に先立てたる時は其の動詞が單形なると複形なるとに係らず主

格代名詞は其の間に挟み置くべし。

para eu fazer....

em elle chegando,

sem nós termos fallado,

従格に用ひられたる時

第一 主格の現はされたる場合

(1) 動詞の時が直接法の未來を除ける其他にして單形の時に従格は動詞の前後何れに置かるるも可なり、但し主格は常に従格若くは動詞の前に置かるるものとす。

eu te recomendo 又は

eu recomendo-te.

若し動詞の時が過去の複形なる時は従格は助動詞の前後孰れに置くも可なれども前に置かるるを普通とす

elle nos tem escripto 又は elle tem-nos escripto,

nós lhes tinhamos dito 又は nós tinhamos lhes dito,

(2) 動詞の「時」が直接法不完全未來の時は従格は動詞の直ぐ前に置くべし。

elle me escreverá.

eu te darei.

同上複形の時 (即ち haver の直接法現在を助動詞とし之に動詞の不定法に de を以て結付たる形) 助動詞の前又は不定法の前後何れかに置くを得るも助動詞と de 前置詞との間に挟むべからず。

例せば elle me ha de enviar.

elle ha de mi enviar.

elle ha de enviar-me の三様何れとなすも
宜けれ共 elle ha me de enviar となす可らず

(3) 動詞の「時」が再歸動詞の未來を除ける其の他の
時には動詞の前後何れにも可なり。

eu me queixo 又は eu queixo-me,

elle se queixava 又は elle queixava-se.

(4) 否定文の時には常に動詞の前に置くべし。

elle não lhe falla,

elle não nos dirá,

nós não o tínhamos avisado,

(5) 動詞が條件法なる時は肯定否定を問はず常に動
詞の前に置くべし。

eu o diria,

elle te avisaria,

nós não lhe aconselharíamos,

(6) 動詞が命令法なる時は動詞の後に置かれ主格之
に次ぐなり。

dize-me tu,

dê-lhe elle,

façamol-o nós,

但し否定形の時は從格は動詞の前に主格は動詞の後
に置くべし。

não me digas tu,

não lhe dê elle.

não o façamos nós.

(7) 動詞が接續法の時は肯定、否定形單形複形に關
せず動詞に先立つものとす。

que elle me veja,

que elle não nos tinha avisado,

se o Sr. o fizer,

se nós não lhe tivéssemos dito,

第二 主格が現はれざる時

「一般の規則」文は從格を以て始むべからず、

(1) 動詞の時が直接法の未來を除きたる其の他の時
にして單形なる時は常に動詞の後に又複形なる時は助
動詞の後に置かる

acompanho-te,

escrevia-me então,

pedi-lhe já,

tem-me prevenido,

tenho-lhe aconselhado,

(2) 動詞が未來の時は次の如く特殊の組立をなす、
動詞の語根たる不定法の形と語尾を分離し其間に代
名詞を挟み連線を以て各を結び付く、但し語尾の文字
には h を冠する事を忘るべからず、假令は conduzirei-
te と云ふ代りに conducir と ei を離し h を附して hei
となし此間に te を挟みて conducir-te-hei とす。

avisar-me-ha,

pedir-lh'o-hemos.

注意—此の形は主格が代名詞に非ずして名詞なる時は文に現さるることを得、

例: o amigo dir-m'o-ha の如くなるも代名詞を用ゐて elle dir-m'o-ha と云ふことを得ず、此場合には前に述たる如く elle m'o dirá とすべし。

(3) 不完全未來即ち hei de, has de, ha de 等の助動詞と不定法より成る時に在りては從格代名詞は不定法の前後何れかに置くべし。

hei de lhe escrever.

又は hei de escrever-lhe.

(4) 動詞が條件法の現在又は過去なる時は(2)に於る未來の時と同じく組合すべし、例へは

conduzir-me-hias,

escrever-nos-hia,

ter-lh'o-hiamos ensinado,

(5) 動詞が命令法の時は常に動詞の後に置くべし。

dize-me, faça-me,

(6) 動詞が現在分詞又は過去分詞なる時は從格は動詞の後に置くべし。

dizendo-nos isso, mentes,

tendo-lhes assim fallado, lá se foi,

第三 主格が現はされずして文章か動詞以外の語に始まりたる時

(1) 文が副詞、前置詞、接續詞等に始まりたる時は若し動詞が單形なれば從格代名詞は動詞の前に、若し又

複形なれば助動詞の前に置くべし、此規則は動詞の各法に適用す。

直接法の時の例:

Não te espero mais.

Nunca nos deo nada.

Sempre lh'o temos dito.

Já nos tinhamo prevenido.

條件法の時の例:

Não me fallarias assim, se não fosses quem és.

Já lh'o teriamos dito, se fosse verdade.

命令法の時の例:

Não me falles assim.

接續法の時の例:

Quero que m'o restituas.

Duvido que a tenham visto.

Se me tivesses prometido.

Quando nos tiverem affirmado.

(2) 不定法の不人稱の時には動詞の前後何れに置くも可なり。

Sempre pedir-nos, e nunca nos restituir!

Sem lh'o ter 又は Sem ter lh'o mostrado.

(3) 再歸動詞の時は普通動詞の前に置かるるも語呂によりては後に置くも差支なし。

Hontem me lembrei 又は hontem lembrei-me.

(4) em に先立たれたる現在分詞の時は其後の何れ



に置くも可なり。

em dizendo-lhe 又は em lhe dizendo.

em vendo-a 又は em a vendo.

(5) 従格か二つの動詞の不定法と共に置れる時は第一の動詞の前か第二の動詞の後か若くは第一、第二の間に置くべし。

Sem nos poder dizer.

Sem poder nos dizer.

Sem poder dizer-nos.

Depois de m'ó mandar dizer.

Depois de mandar-m'ó dizer.

Depois de mandar dizer-m'ó.

第五章

動詞

動詞は人若くは物の状態、動作、存在等を言ひ表す語なり、動詞の働即ち **何々を爲す、何々で有る** 所の人又は物を動詞の主格と謂ひ又其の意を補全する語を屬辭と謂ふ

動詞の形體 Voz do verbo

動詞は其の働と主格との關係より三つの形體に表はさる

能動體 Voz activo

受動體 Voz passivo

再歸體 Voz reflexo

第一 は主格自からの動作が直接に言ひ表はさるる場合

Pedro comprou uma casa.

第二 は主格が或る動作を受くる場合

Uma casa foi comprada por Pedro.

第三 は主格が或る動作を演し同時に之を受くる場合

Eu me enganei.

別に文法家によりては半受動體 Voz média passiva なるものを擧ぐるあり此は一に轉化受動體と譯すこと

を得、即ち代名詞 *se* を直接補語として組立られたるものにして能動體を受動體に轉化するものにて例へば *escreveu-se que...* とは *escreveu* 書きたりを書かれたりになしたるなり、*foi escripto* に同じ

動詞を文法上の働より次の如く分類す

- 1.—他動詞 *Verbos activos* 又は *transitivos*;
- 2.—自動詞 *Verbos neutros* 又は *intransitivos*;
- 3.—再歸動詞 *Verbos reflexivos* 又は *pronominaes*,
- 4.—助動詞 *Verbos auxiliares*.
- 5.—不人稱動詞 *Verbos impessoaes*.
- 6.—不具動詞 *Verbos defectivos*.
- 7.—規則動詞 *Verbos regulares*,
- 8.—不規則動詞 *Verbos irregulares*.

他動詞とは其働を直接他の人又は物即ち直定詞又は屬辭なくては意味完全せざるものなり、例へば *li a carta* と云へば *carta* なる屬辭なくては何を讀みたるや要領を缺くなり。

自動詞とは其の働が主格以外他の人又は物に及さざるものにて屬辭を要せずして意味をなすものなり、即 *dormir, vir, ir* 動詞の如き是れなり。

再歸動詞とは働が己に及ぼすものにて代名詞二個を伴ひ其の一個は主格にして他の一個は補語たる從格なり即ち *queixar-se, ferir-se* の如し。

助動詞は時々他の動詞に添へて其働を助くる役目をなし *ser, estar, ter, haver* 等にして純粹の助動詞は *ter,*

と *haver* にて他の動詞の複合形の時を作るに用ゐらるるものなり。

Sou amado; será vendido.

例: *Estou escrevendo.*

Tenho escripto.

不人稱動詞とは人又は物に非ざる不人稱に用ゐらるるものにして即ち單に第三人稱單數のみに用ひらる

不具動詞とは或る動詞の變化中或る時又は人稱を缺きたるものを云ふ *chover, nevar, acontecer, bastar, parecer, constar*, 又 *feder* (臭氣を發する) の如く *eu fedo* と云ふ第一人稱には用ゐず此の場合には *estou fedendo* となすか又は *cheirar* 動詞を用ゐ *cheirar mal* となし孰も三人稱單數の或る「時」にのみ用ゐらるるものなり、

文法家に依りては *chover, nevar* 等の不具動詞を不人稱動詞中に置くものもあり、

規則動詞とは語根を變化するものにして後に掲ぐる變化の範例に従ひ語尾を變化するものを謂ふ、

規則動詞の變化に三種あり

第一變化は不定法不人稱現在に於る語尾 *ar* を有するもの *amar* の如く

第二變化は同語尾 *er* を有するもの *vender* の如く

第三變化は同語尾 *ir* を有するもの *partir* の如し

不規則動詞とは語尾又は語根又は双方に於て不規則

なる變化をなすものを云ふ。

動詞の變化法 *Conjugação do verbo.*

動詞の變化法とは動詞の用ゐられたる法 (modo), 時 (tempo), 人稱 (pessoa) 及び數 (numero) に依り語尾に一定の變化をなすを云ふ。

法に五つあり

- 直接法 *Indicativo.*
- 條件法 *Condicional.*
- 接續法 *Subjunctivo.*
- 命令法 *Imperativo.*
- 不定法 *Infinitivo* 又は *infinito.*

直接法は確實なる状態若くは動作を有りの儘に言ひ表すものなり。

例: eu **fallo**, elle **ama**.

條件法は或る假定的條件の下に起るべき働を言ひ表はすものなり。

Daria se tivesse.

接續法は主文の動詞が希望, 慾求, 假定, 想像等を表示するに當り之と關聯して補足文中に用ゐらるる動詞の法にして疑義を表し常に接續詞により先立たれたるものなり。

Estimo que **venha**.

命令法は動詞が命令, 勸告, 決意若くは希望の意を表示するもの

acaba! escutai! partamos.

不定法は状態若くは動作を漠然と言ひ表はすものなり
例:

olhar, comprar の如し。

動詞の時 *Tempos.*

動詞の時とは言ひ表さるる状態若くは動作が實現さるる時を云ふ即ち**現在, 過去, 未來**にして過去に不完全過去, 完全過去, 大過去の別あり, 未來に不完全, 完全の別あり更に單複の二つの形を有す, 單形とは動詞の語尾の變化によるもの, 複形とは助動詞を附して組立てられたる形なり。

次に各法に就て動詞の「時」の用法を説明せん

直接法

現在は (1) 現在に爲しつある動作, 物の存在, 状態等と言ひ表す時例へは eu **escrevo**, eu **fallo** 等の如し。

(2) 現在の事柄と言ひ表はすに多少繼續的の意味若くは習慣性の意味を有する場合, 例へは Eu **estudo** portuguez; **Diz** mal de todos の如し。

(3) 近き未來におこれる確實の事柄を言表す場合, 例へは Parto **amanhã**; **Amanhã** é domingo の如し。

不完全過去 (半過去又は不定過去とも云ふ) は

(1) 既に行はれつゝありし一の事柄が新に起りたる他の過去に屬する事柄と交叉したる場合, 換言すれば動作の起りたる時は過去なれども其當時繼續中なりし場合, 例は Eu **estava** escrevendo, quando chegou

meu irmão

(2) 或る期間引續きて行はれたる過去の事柄若くは過去に於ける或者の習慣となつて居た事柄を云ひ現はす場合、例へば *Outrora eu gostava da pesca; Elle dormia sempre muito tarde.*

完全過去 (定過去とも云ふ) は不完全過去の如く繼續の意義なく全く事柄が過去となり終りたる場合、例は *Hontem jantei em casa de um amigo. Hoje almocei bem.*

同上複形は動作の行はれし時が何時とも明示せず漠然過去に於て行はれたる事柄を言ひ表はす場合、若くは其時が未だ全く経過して居らぬ意味を示す場合、例は *Tenho visto uma cousa phenomenal; Esta semana tenho trabalhado bastante* の如し。

[注意]—第二例の *esta semana* は未だ終了せず尙餘日ある場合に於て既に充分働いたと云ふ過去の事柄を叙するものにして其の働は尙引續き行はるるものと見做さるる場合なり、若し其働が一時的にして全く終了せるものならば假令其の週か全く過ぎ去りたるに非ずとも完全過去を用ゐ *esta semana trabalhei bastante* と云ふなり、更に一例を擧ぐれば *almocei melhor hoje que hontem* の如し。

大過去 は過去に於ける或る出来事に對し夫れ以前に已に起りたる事柄を言ひ表はす場合にして其の單形と複形とは次の如き差あり。

(1) 單形は重に高尚なる文章に用ゐられ普通は複形を用ふ。

(2) 複形は時の觀念が明なる時に用ゐられ例は

Já eu tinha chegado quando elle entrou の如く單形は是に反して其時が不確にて漠然たる場合に用ゐらる、例は *O ladrão José quando sahia da casa do João, onde fizera uma boa colheta de ternos de roupa, foi preso pela policia* の如し。

(3) 單形は又條件法の現在に代用せらるることあり例は *Muito quizerá obsequial-o, mas não posso.*

不完全未來 (單に未來とも云ふ) は未來に行はれんとする事柄を示すに用ゐられ

eu escreverei, eu partirei の如し。

此「時」は疑問文に用ゐられ疑ひの意味を含む場合あり。

Que gente será esta?

Que quererá elle?

又二人稱單數に用ゐられて命令法の語調を和らげたる形となる場合あり

Não fallará V, d'isso.

同上複形は同しく未來に屬する事柄を叙するものなれ共其の實現の確實なること、必要なること又は決定的なること、義務的なること、必然的なること等の意味を含めるものなり。

Hei de partir ás quatro horas.

Hei de vender esta casa em leilão.

Ha de chover esta noite, se continuar o calor.

Ha de ser o que Deus quizer.

完全未來(前未來とも云ふ)は他の未來に屬する出來事に先つて其前に行はるる事柄を示すに用ふ。

Terei acabado quando elle chegar.

條件法

不完全(現在とも云ふ)は或る事柄が或る條件の下に假定して示さるる場合に用ふ

Diria se pudesse.

Eu **compraria**, se tivesse dinheiro.

完全(過去とも云ふ)は過去の事柄を或る條件の下に假定して示す場合に用ふ

Eu **teria dito**, se tivesse podido.

命令法

命令法の「時」としては現在のみなれ共此「時」は同時に未來ともなり、命令、勸告、希望等を意味する時は現在に當り、實行を意味する時は未來に當る

Lê esta carta.

Andemcs mais depressa.

眞の命令法は單に二人稱の單數のみにして他は接續法の現在を應用せるなり。

接續法

此の法は前に述たる如く補足文に用ゆるものにして現在、不完全過去、完全過去、大過去等は孰れも疑惑、想

像、意志、希望等の意を含みたる主文の動詞に隸屬するものにして常に接續詞 **que** を伴ふ、但し **que** は時として顯はされざることあり、**talvez** を以て始りたる時の如き屢々 **talvez**, **venha amanhã** の如くなすも是は **é possível que** 又は **póde ser que** に代るが故なり。

不完全未來と完全未來とは共に未來に屬する不確實の事柄を言ひ表はすものなれ共同時に條件的なり、故に常に接續詞 **se** (若しも) と云ふ言葉か又は **quando**, **quanto**, **como** の如き副詞若くは **quem**, **o que**, **quanto**, の如き不定代名詞を先立つ

Se eu **tiver** tempo.

Quando puder.

Quem o **fizer**.

Estimarei se **tiveres vindo**.

接續法の用法は甚だ複雑にして其場合を決定するは初學者の最も困難とする所なれば別に説明することゝすべし

不定法

現在、過去、未來共に意義を不決定的に言ひ表はすものにして尙ほ不人稱時と人稱時とあり。

(1) **不人稱時** は主動詞に隸屬する不定法の動詞が同じ一つの主格の働を示す場合に用ゐらる。

(2) 主動詞が **ser** の不人稱動詞にして附屬動詞が主格を有せざる場合

E' **necessario** estudar **grammatica**.

例 **Quero dizer, vamos trabalhar.**

Não se esqueça **de fallar** por mim.

Virão para **ver** a cidade.

但し主格を同ふするも不定法動詞か主動詞より前に來りたる時は人稱時を用ふるを可とし。

Por **terem** feito isto, estão agora soffrendo.

の如し又主動詞の間に他の句が挿入され餘り離れて置たる場合も人稱時を用ふるを可とす。

Virão todos ao mesmo tempo, e já preparados para **partirem**.

以上の場合にて不人稱時を用ゐて **partir** 又は **para partir** となすも反則には非ざれども人稱時を用ふる方適當にして斯の如き撰擇法は時日を経て殊に實習に由り自覺するの外なし。

人稱時は主動詞と隸屬動詞と主格を異にする場合に用ふ。

Ainda te poderei ver, antes de **partires**.

此例にて若し不人稱の **partir** を用ふる時は出立する人は我なるや汝なるや判然せざるべし。

不定法は時に主格となり又は主格の屬詞となりて名詞として用ゐらるることあり而て其の示さるる意義が一般的なる時は不人稱を用ふ

(主格の場合) 例: **mentir é faltar** á verdade.

(屬詞の場合) **Tem o costume de sahir** todas as noites
其の意義が制限的なる時は人稱の「時」を用ゆ、

O essencial é **estarmos** sãos de corpo e de espirito.

動詞の人稱

人稱は代名詞を以て代表せられ 第一人稱、第二人稱、第三人稱とあり、主格の人稱の異なるに従ひ動詞も變化するものなり、而して葡語に於ては前に述べたる如く多くの場合動詞の變化によりて明かに其の人稱を區別することを得る爲め代名詞を省略すること多し、詳細は代名詞の部に於て説明せるが如し、但し茲に重ねて注意し置きたきは *Você, o Senhor, a Senhora, vossa Senhoria, Vossa Excellencia* 等第二人稱として用ゆる代用語は實際は話し掛けらるる人なれば第二人稱の動詞を採る筈なれ共慣習上第三人稱の動詞を採ることなり即ち第二人稱と第三人稱とは共に第三人稱動詞を採るを習慣とす

V. ama, o Sr. ama, elle ama,

V. amará, o Sr. amará, elle amará.

Vs. amaraõ, os Srs. amaraõ, elles amaraõ.

動詞の數

數は之を單數と複數の二種に分ち主格の數に其動詞の數を一致せしむべきものなり、即ち主格が第一人稱單數なる時は動詞も第一人稱單數の形を採り、複數なるときは複數の形を採るなり。

動詞の變化 Ter (持つ)

時	人稱	eu (私ハ)	tu (汝ハ)	(彼ハ, 貴方ハ) elle, o senhor	nós (吾々ハ)	vós (汝等ハ)	(彼等ハ, 貴方達ハ) elles, os senhores
直接法 現	在	tenho	tes	tem	temos	tendes	teem, têm
不完全過去		tinha	tinhas	tinha	tinhamos	tinheis	tinham
完全過去		tive	tiveste	teve	tivemos	tivestes	tiveram
大過去		tivera	tiveras	tivera	tiveramos	tiverais	tiveram
未來		terei	terás	terá	teremos	tereis	terão
條件法 不完全過去		teria	terias	teria	teríamos	tereis	teriam
第一形		tivera	tiveras	tivera	tiveramos	tiverais	tiveram
第二形		—	tem	—	—	tende	—
命令法		tenha	tenhas	tenha	tenhamos	tenhaes	tenham
接續法 現	在	tivesse	tivesses	tivesse	tivéssemos	tivésseis	tivéssem
不完全過去		tiver	tiveres	tiver	tivermos	tiverdes	tiverem
未來		ter	teres	ter	termos	terdes	terem
不定法 人稱的現在		ter	ter	ter	ter	terdes	terem
非人稱現在		ter	ter	ter	ter	terdes	terem
現在分詞		tendo	tendo	tendo	tendo	tendo	tendo
過去分詞		tido	tido	tido	tido	tido	tido

Haver (持つ)

時	人稱	eu (私ハ)	tu (汝ハ)	(彼ハ, 貴方ハ) elle, o senhor	nós (吾々ハ)	vós (汝等ハ)	(彼等ハ, 貴方達ハ) elles, os senhores
直接法 現	在	hei	has	ha	havemos	haveis	hão
不完全過去		havia	havias	havia	havíamos	havíeis	haviam
完全過去		houve	houveste	houve	houvemos	houvestes	houveram
大過去		houvera	houveras	houvera	houveramos	houverais	houveram
未來		haverá	haverás	haverá	haveremos	haveréis	haverão
條件法 不完全過去		haveria	haverias	haveria	haveríamos	haveríeis	haveriam
第一形		houvera	houveras	houvera	houveramos	houverais	houveram
第二形		—	ha	—	—	havei	—
命令法		haja	hajas	haja	hajamos	hajeis	hajam
接續法 現	在	houvesse	houvesseis	houvesse	houvéssemos	houvésseis	houvéssem
不完全過去		houver	houveres	houver	houvermos	houverdes	houverem
未來		haver	haveres	haver	havermos	haverdes	haverem
不定法 人稱的現在		haver	haver	haver	haver	haverdes	haverem
非人稱現在		havendo	havendo	havendo	havendo	havendo	havendo
現在分詞		havido	havido	havido	havido	havido	havido
過去分詞		—	—	—	—	—	—

Ser (有る)

時	人稱	eu (私)	tu (汝)	彼 ^ハ , 貴方 ^ハ ell, o senhor	nós (吾々)	vós (汝等)	(彼等 ^ハ , 貴方達 ^ハ) elles, os senhores
直接法	現在	sou	és	é	somos	sois	são
	不完全過去	era	eras	era	eramos	ereis	eram
	完全過去	fui	foste	foi	fomos	fostes	fôram
	大過去	fôra	fôras	fôra	foramos	foreis	foram
	未來	serei	serás	será	seremos	seréis	serão
條件法	不完全過去	seria	serias	seria	seríamos	serieis	seriam
	第一形	fôra	fôras	fôra	fôramos	fôreis	fôram
	第二形	—	sê	—	—	sedê	—
命令法	現在	seja	sejas	seja	sejamos	sejais	sejam
接續法	不完全過去	fosse	fosses	fosse	fôssemos	fôsseis	fôssem
	未來	fôr	fôres	fôr	fôrmos	fôrdes	fôrram
不定法	人稱的現在	ser	seres	ser	sermos	serdes	serem
	非人稱現在	ser	—	—	—	—	—
	現在分詞	sendo	—	—	—	—	—
	過去分詞	sido	—	—	—	—	—

Estar (在る, 居る)

時	人稱	eu (私)	tu (汝)	彼 ^ハ , 貴方 ^ハ elle, o senhor	nós (吾々)	vós (汝等)	(彼等 ^ハ , 貴方達 ^ハ) elles, os senhores
直接法	現在	estou	estás	está	estamos	estais	estão
	不完全過去	estava	estavas	estava	estávamos	estaveis	estavam
	完全過去	estive	estiveste	estive	estivemos	estivestes	estiveram
	大過去	estivera	estiveras	estivera	estiveramos	estivereis	estiveram
	未來	estarei	estarás	estará	estaremos	estareis	estarão
條件法	不完全過去	estaria	estarias	estaria	estaríamos	estarieis	estariam
	第一形	estivera	estiveras	estivera	estiveramos	estivereis	estiveram
	第二形	—	está	—	—	estae	—
命令法	現在	esteja	estejas	esteja	estejamos	estejais	estejam
接續法	不完全過去	estivesse	estivesseis	estivesse	estivessemos	estivesseis	estivessem
	未來	estiver	estiveres	estiver	estivermos	estiverdes	estiverem
不定法	人稱的現在	estar	estares	estar	estarmos	estardes	estarem
	非人稱現在	estar	—	—	—	—	—
	現在分詞	estando	—	—	—	—	—
	過去分詞	estado	—	—	—	—	—

規則動詞第一變化 Louvar (褒める)

時	人稱	eu (私)	tu (汝)	(彼, 貴方) elle, o senhor	nós (吾々)	vós (汝等)	(彼等, 貴方達) elles, os senhores
直接法	現在	louv-o	louv-as	louv-a	louv-amos	louv-a-is	louv-am
	不完全過去	louv-ava	louv-avas	louv-ava	louv-avamos	louv-avais	louv-avam
	完全過去	louv-ei	louv-este	louv-ou	louv-amos	louv-astes	louv-avam
	大過去	louv-ara	louv-aras	louv-ara	louv-aramos	louv-áreis	louv-aram
	未來	louv-arei	louv-erás	louv-ará	louv-aremos	louv-áreis	louv-arão
條件法	不完全過去	louv-aria	louv-arias	louv-aria	louv-ariamos	louv-ariéis	louv-ariam
命令法		—	louv-a	—	—	louv-ae	—
接續法	現在	louv-e	louv-es	louv-e	louv-emos	louv-eis	louv-em
不定過去	第一形	louv-asse	louv-asses	louv-asse	louv-ássemos	louv-ásseis	louv-assem
	第二形	louv-ara	louv-aras	louv-ara	louv-áramos	louv-áreis	louv-áram
	未來	louv-ar	louv-ares	louv-ar	louv-áramos	louv-ardes	louv-áram
不定法人稱的現在		louv-ar	louv-ares	louv-ar	louv-áramos	louv-ardes	louv-áram
非人稱現在		louv-ar	louv-ares	louv-ar	louv-áramos	louv-ardes	louv-áram
現在分詞		louv-ando					
過去分詞		louv-ado					

規則動詞第二變化 Vender (賣る)

時	人稱	eu (私)	tu (汝)	(彼, 貴方) elle, o senhor	nós (吾々)	vós (汝等)	(彼等, 貴方達) elles, os senhores
直接法	現在	vend-o	vend-es	vend-e	vend-emos	vend-eis	vend-em
	不完全過去	vend-ia	vend-ias	vend-ia	vend-íamos	vend-íeis	vend-iam
	完全過去	vend-i	vend-este	vend-eu	vend-êmos	vend-estes	vend-eram
	大過去	vend-era	vend-eras	vend-era	vend-eramos	vend-êreis	vend-eram
	未來	vend-erei	vend-erás	vend-erá	vend-eremos	vend-êreis	vend-erão
條件法	不完全過去	vend-eria	vend-erias	vend-eria	vend-eríamos	vend-eríeis	vend-eriam
命令法		—	vend-e	—	—	vend-ei	—
接續法	現在	vend-a	vend-as	vend-a	vend-amos	vend-ais	vend-am
不定過去	第一形	vend-esse	vend-esses	vend-esse	vend-éssemos	vend-ésseis	vend-essem
	第二形	vend-er	vend-eres	vend-er	vend-éramos	vend-éreis	vend-éram
不定法人稱的現在		vend-er	vend-eres	vend-er	vend-éramos	vend-éreis	vend-éram
非人稱現在		vend-er	vend-eres	vend-er	vend-éramos	vend-éreis	vend-éram
現在分詞		vend-endo					
過去分詞		vend-ido					

規則動詞第三變化 Partir (割る, 出發する)

時	人稱	eu (私)	tu (汝)	(彼, 貴方) elle, o senhor	nós (吾々)	vós (汝等)	(彼等, 貴方達) elles, os senhores
直接法 現在	在	part-o	part-es	part-e	part-imos	part-is	part-em
不完全過去	去	part-ia	part-ias	part-ia	part-íamos	part-ieis	part-iam
完全過去	去	part-i	part-iste	part-iu	part-imos	part-istes	part-iram
大過去	去	part-ira	part-irás	part-ira	part-iramos	part-iréis	part-iram
未來	來	part-irei	part-irás	part-irá	part-iremos	part-ireis	part-irão
條件法 不完全過去	去	part-iria	part-irias	part-iria	part-iríamos	part-irieis	part-iriam
命令法		—	part-e	—	—	part-i	—
接續法 現在	在	part-a	part-as	part-a	part-amos	part-ais	part-am
不完全過去	去	part-isse	part-isses	part-isse	part-íssemos	part-ísseis	part-íssem
未來	來	part-ir	part-ires	part-ir	part-irmos	part-irdes	part-irem
不定法 人稱的現在	現在	part-ir	part-ires	part-ir	part-irmos	part-irdes	part-irem
非人稱現在	現在	part-ir	part-ires	part-ir	part-irmos	part-irdes	part-irem
現在分詞	現在	part-indo	part-indo	part-indo	part-indo	part-indo	part-indo
過去分詞	過去	part-ido	part-ido	part-ido	part-ido	part-ido	part-ido

規則動詞の變化に関する注意

第一變化に屬する動詞中 car, gar に終る動詞は變化中發音法の規定に依り次の變化を表す

e, g の後に母韻 e の來る場合には順次に gu, qu に換置せらる

例: brincar に於る brinquei, brinque

rogar に於る roguei, rogue 等の如し

第二變化に屬する cer, ger に終る動詞は語尾の變化に a 又は o の來る場合には c を ç に g を j に換らる

conhecer—conheço, conheça, conheçamos. etc.

eleger (撰定する)—elejo, eleja, elejas, etc.

guer に終る動詞は語尾の變化に a 又は o の來る場合には gu の u を失ふ

erguer—ergo, erga, ergamos, etc.

第三變化に屬する gir に終る動詞は語尾の變化に a 又は o の來る場合には g を j に換へらる

fugir—fujo, fujas, fuja, etc.

同 guir に終る動詞は語尾 a 又は o の來る場合には g に次ぐ u を失ふ

distinguir—distingo, distinga etc.

但し arguir 動詞 (訴へる) の如く u が有聲なるもの (アルガイルと發音す) は u を保存す。

quir に終る動詞は語尾の變化に o 又は a が來る場合には qu を c に換へる

Pôr (置く)

時	人 稱	eu (私)	tu (汝)	(彼, 貴方) elle, o senhor	nós (吾々)	vós (汝等)	(彼等, 貴方達) elles, os senhores
直接法	現在	p—onho	p—ões	p—õe	p—omos	p—ondes	p—oes
	不完全過去	p—unha	p—unhas	p—unha	p—unhamos	p—unheis	p—unham
	完全過去	p—uz	p—uzeste	p—oz	p—uzemos	p—uzestes	p—uzeram
	大 過 去	p—uzera	p—uzeras	p—uzera	p—uzeramos	p—uzereis	p—uzeram
	未 來	p—orei	p—orás	p—orá	p—oremos	p—oreis	p—orão
	條件法	p—oria	p—orias	p—oria	p—oríamos	p—orieis	p—oriam
	命令法	—	p—oe	—	—	p—onde	—
	接續法	p—onha	p—onhas	p—onha	p—onhamos	p—onhaes	p—onham
	現在	p—uzosse	p—uzesses	p—uzesse	p—uzessemos	p—uzesseis	p—uzessem
	不完全過去	p—uzer	p—uzeres	p—uzer	p—uzeramos	p—uzerdes	p—uzerem
	未 來	p—ôr	p—ores	p—ôr	p—ormos	p—ordes	p—ôrem
	不定法	p—ôr	p—ores	p—ôr	p—ormos	p—ordes	p—ôrem
	人稱的現在	p—ônho	p—ônhas	p—ônha	p—ônhamos	p—ônhaes	p—ônham
	非人稱現在	p—ônho	p—ônhas	p—ônha	p—ônhamos	p—ônhaes	p—ônham
	現在分詞	p—ondo	p—ondos	p—ondo	p—ondamos	p—ondades	p—ondam
	過去分詞	p—osto	p—ostos	p—osto	p—ostamos	p—ostades	p—ostam

delinquir (法に違反する)—delinco, delincas, delina, etc.

規則動詞は前述の如く語尾 ar, er, ir を有する三つなれ共別に文法家に依りては or に終る動詞を第四變化とし規則動詞に入るものあり然れ共此は pôr 動詞及び其の組成語の孰れも por に終りたる動詞にのみ局限され寧ろ不規則に入るを至當と見做すが故に規則動詞より除外せり。

此の動詞に倣いて變化する動詞は次の如し

antepor, compor, descompor, dispor,
expor, impor, interpor, oppor, prepor,
presuppor, pospor, propor 等

不規則動詞

不規則動詞は既に述べる如く規則動詞の變化法に一致せず、語根にまで變化を來すものあり、而て不規則ながらも一定の形式の下に變化し若干動詞に共通するものと然らざるものとあり、今便宜上之を甲乙二類に分ちて表を掲ぐるごととせり

甲類

〔注意〕 以下掲ぐる表には單に不規則に變化する「時」のみを示すが故記載なき「時」は規則動詞と同様正則の變化を受くるものと心得べし

Pratear (鍍銀する) 直接法現在 prateio, prateias, prateia, prateamos, prateais, prateião; 命令法 prateia, prateie, prateemos, prateai, prateiem. 接續法現在 prateie, prateies, prateie, prateemos, prateemos, prateeis prateiem.

此に倣ふ動詞は

cear, recear, recrear 等なり

Premiar (褒賞を與へる) 直接法現在, premeio, premeias, premeia, premiamos, premiais, premeião; 命令法 premeia, premeie, premiemos, premiai, premeiem; 接續法現在 premeie, premeies,

premeie, premiemos, premeis, premeiem.

此に倣ふ動詞は

allumiar, commerciar, mediar, odiar, remediar,
negociar 等なり

Produzir (生ずる, 産出する) の如く uzir に終る動詞は直接法現在三人稱單數に於て語尾たる e を失ふ即ち produze となる所を produz となす。

此に倣ふ動詞は

conduzir, deduzir, induzir, ind. oduzir,
luzir, reduzir, seduzir, traduzir 等なり

Sahir (外出する) は h なしに sair と書くものあれ共 h を有する場合には下記の「時」に h を失ふ

直接法現在一人稱單數 saio; 命令法 saia, saiamos, saiam; 接續法現在 saia, saias, saia, saiamos, saiais, saiam.

此に倣ふ動詞は

attrahir, contrahir, distrahir, cahir, subtrahir 等

Subir (上る) の如く語根の最後の綴に u を有する動詞は直接法現在の二人稱三人稱の單數と複數及び命令法の二人稱單數に於て u を o に換ゆ

直接法現在 subo, sobes, sobe, subimos, subis,
sobem; 命令法, sobe, suba, subamos, subi, subam.

此に倣ふ動詞は

Acudir, bulir, construir, consumir, cuspir, destruir,
engulir, fugir, sacudir sumir, 等

但し *presumir, restituir, instituir, (任する) instruir* 等は以上と同形なれ共全々規則的に變化するものなり、

Dormir (眠る) 直接法現在 *durmo, dormes, dorme, dormimos, dormis, dormem*; 接續法現在 *durma, durmas, durma, durmamos, durmais, durmam*.

此に倣ふ動詞は

cabrir.

Advertir (告知する) 此の動詞の如く語根の最後の綴に *e* を有するものは直接法現在一人稱單數と命令法の時並に接續法に於て *e* を *i* に換へらる。

直接法現在一人稱單數, *advirto*; 命令法二人稱單數 *advirta*, 同一人稱複數 *advirtamos*, 同三人稱複數 *advirtam*; 接續法現在 *advirta, advirtas, advirta, advirtamos, advirtais, advirtam*.

此に倣ふ動詞は

assentir, competir, conferir, conseguir, consentir, corrigir, deferir, despir, digerir, desmentir, ferir, frigir, mentir, perseguir, preferir, prevenir, proferir, proseguir, referir, sentir, servir, seguir, vestir 等

Pedir (乞ふ) 直接法一人稱單數, 命令法三人稱單數及ひ一人稱複數並に接續法に於て語根の *d* を *ç* に換へらる

直接法現在一人稱單數 *peço*, 命令法 *peça, peçamos*

peçam; 接續法 *peça, peças, peça, peçamos, peçais, peçam*.

此に倣ふ動詞は

despedir, impedir, medir, ouvir 等

乙 類

Dar (與ふ) 直接法現在, *dou, dás, dá, damos, dais, dão*; 完全過去 *dei, déste, deu, demos, déstes, deram*; 大過去 *dera, deras, dera, deramos, dereis, deram*; 接續法現在 *dê, dês, dê, demos, deis, dêm*; 同過去 *dêsse, dêsses, dêsse, dêssemos, dêsseis, dêsem*; 同未來 *der, deres, der, dermos, derdes, derem*,

Caber (容れ得る) 直接法現在 *caibo, cabes, cabe, cabemos, cabeis, cabem*; 完全過去 *coube, caubeste, coube, coubemos, coubestes, couberam*; 大過去 *coubera, couberas, coubera, couberamos, coubereis, couberam*; 接續法現在 *caiba, caibas, caiba, caibamos, caibais, caibam*; 同過去 *coubesse, coubesses, coubesse, coubessemos, coubesseis, coubessem*; 同未來 *couber, couberes, couber, coubermos, couberdes, couberem*.

Crêr (信ずる) 直接法現在, *creio, crês, crê, cremos, credes, crêm*; 接續法現在 *creia, creias, creia, creiamos, creiais, creiam*.

Dizer (言ふ) 直接法現在 *digo, dizes, diz, dizemos,*

dizeis, dizem; 完全過去 disse, disseste, disse, dissemos, dissestes, disseram; 大過去 dissera, disseras, dissera, disseramos, disserereis, disseram; 不完全未來 direi, dirás, dirá, diremos, direis, dirão; 條件法不完全 diria, dirias, diria, diríamos, dirieis, diriam; 接續法現在 diga, digas, diga, digamos, digais, digam; 同過去 dissesse, dissesseis, dissesse, dissessemos, dissesseis, dissessem; 未來 disser, disseres, disser, dissermos, disserdes, disserem.

Fazer (成す, 作る) 直接法現在, faço, fazes, faz, fazemos, fazeis, fazem, 同完全過去 fiz, fizeste, fez, fizemos, fizestes, fizeram; 同大過去 fizera, fizeras, fizera, fizéramos, fizereis, fizeram; 同不完全未來 farei, farás, fará, faremos, fareis, farão; 條件法不完全 faria, farias, faria, fariamos, farieis, fariam; 接續法現在 faça, faça, faça, façamos, façais, façam; 同過去 fizesse, fizesses, fizesse, fizessemos, fizesseis, fizessem; 同未來 fizer, fizeres, fizer, fizermos, fizerdes, fizerem.

Ler (讀む) 直接法現在 leio, lê, lê, lêmos, lêdes, lêem; 接續法現在 leia, leias, leia, leiamos, leiaes, leiam.

Perder (失ふ) 直接法現在 perco, perdes, perde, perdemos, perdeis, perdem; 接續法現在 peaca, peacas, peaca, peacamos, peacais, peacam.

Poder (能ふ) 直接法現在 posso, pódes, póde, podemos, podeis, podem; 同完全過去 pude, pudeste, pôde, pudemos, pudestes, puderam; 同大過去 pudera, puderas, pudera, pudéramos, pudereis, puderam; 接續法現在 possa, possas, possa, possamos, possóis, possam; 同過去 pudesse, pudesses, pudesse, pudessemos, pudesseis, pudessem 未來 puder, poderes, puder, pudéramos, poderdes, puderem

Prazer, (不人稱動詞, 氣に入る) 直接法現在 praz; 完全過去 prouve; 大過去 provera; 接續法現在 praza; 同過去 prouvesse; 未來 prouver.

Querer, (好む, 欲する) 直接法現在 quero, queres, quer, queremos, quereis, querem; 完全過去 quiz, quizeste, quiz, quizemos, quizestes, quizeram; 同大過去 quizera, quizeras, quizera, quizeramos, quizereis, quizeram; 接續法現在 queira, queiras, queiramos, queiraes; queiram, 同過去 quizesse, quizesseis, quizesse, quizessemos, quizesseis, quizessem, 同未來 quizer, quizeres, quizer, quizermos, quizerdes, quizerem.

此の動詞には命令法なし

Requerer (請願する) 直接法現在, 一人稱單數, requireiro; 同三人稱, requer, ; 接續法現在 requiera, requieras, requiera, requiramos, requieraes, re-

queiram.

Saber (知る) 直接法現在 sei, sabes, sabe, sabemos, sabeis, sabem; 完全過去 soube, soubeste, soubemos, soubestes, souberam; 大過去 soubera, souberas, soubera, souberamos, soubereis, souberam; 接續法現在 saiba, saibas, saiba, saibamos, saibais, saibam; 過去 soubesse, soubesses, soubesse, soubessemos, soubesseis, soubessem, 未來, souber, souberes, souber, soubermos, souberdes, souberem.

Trazer (持來る) 直接法現在 trago, trazes, traz, trazemos, trazes, trazem; 完全過去 trouxe, trouxeste, trouxe, trouxemos, trouxestes, trouxeram; 大過去, trouxera, trouxe as, trouxera, trouxeramos, trouxereis, trouxeram; 未來 trarei, trará, trará, traremos, trareis, trarão; 條件法不完全 traria, trarias, traria, trariamos, trarieis, trariam; 接續法現在 traga, tragas, traga, tragamos, tragais, tragam; 同過去 trouxesse, trouxesses, trouxesse, trouxessemos, trouxessem, 同未來 trazer, trouxeres, trazer, trouxermos, trouxerdes, trouxerem.

Ver (見る) 直接法現在 vejo, vês, vê, vemos, vêdes, vêem; 完全過去 vi, viste, viu, vimos, vistas, viram, 大過去 vira, viras, vira, viramos, vireis, viram; 接續法現在 veja, veja, veja, vejamos,

vejais, vejam; 同過去 visse, visseis, visse, vissemos, visseis, vissem; 同未來 vir, vires, vir, virmos, virdes, virem;

此動詞の過去分詞は visto.

Ir (行く) 直接法現在 vou, vaes, vae, vamos, ides, vão; 同完全過去 fui, foste, foi, fomos, fostes, foram; 大過去 fôra, fôras, fôra, fomos, foreis, foram; 接續法現在 vá, vás, vá, vamos, vades, vão; 同過去 fosse, fosses, fosse, fossemos, fosseis, fosseis; 同未來 Fôr, fôres, fôr formos, fordes, forem.

Rir (笑ふ) 直接法現在 rio, ris, ri, rimos, rides, riem; 接續法現在 ria, rias, ria, riamos, riais, riam.

Valer (價する) 直接法現在 valho, vales, vale 又は val, valem, vales, valem; 接續法現在 valha, valhas, valha, valhamos, valhais, valham.

Vir (來る) 直接法現在 venho, vens, vem, vimos, vindes, vêm; 不完全過去 vinha, vinhas, vinha, vinhamos, vinheis, vinham, 完全過去 vim, vieste, veio, viemos, viestes, vieram; 接續法現在 venha, venhas, venha, venhamos, venhais, venham; 同過去 viesse, viesseis, viesse, viessemos, viesseis, viessem; 同未來 vier, vieres, vier, viermos, vierdes, vierem.

此の動詞の分詞は *vindo* なり (過去現在共通)

〔注意〕 *ser, estar, ter, haver* は無論不規則動詞なれ共前に掲げたる故此表に編入せず。

第六章

分詞

分詞とは動作を示す點に於ては動詞の性質を有し人又は事物の性質状態を示す點に於ては形容詞の性質を有するものなり、

現在分詞と過去分詞との二つに分つ、

現在分詞とは現在の動作若くは状態を抽象的に言ひ表すものにして不定法の語尾を **ndo** に換へて作る即ち

第一變化動詞に於ては **amando** となり

第二變化動詞に於ては **temendo** となり

第三變化動詞に於ては **ouvindo** となる

現在分詞は單獨に用ゐらるる時と助動詞若くは他の動詞と配合して用ゐらるる時とあり、孰れの場合にも能動體にして單獨の時は文の主動詞となり、他の動詞と配合せらるる時は狀況補足語となる

前者の例： *Em acabando de almoçar, vou ter consigo.*

朝飯を済して直に君に會ひに行かう

Descendo a escada escorreguei. 階段を降

る時に滑つた

單獨の現在分詞は第一例に於るが如く前置詞 **em** を

先立つる時は此に關聯せる他の動詞の働が繼續して直に行はるる場合となり、第二例に於る如く **em**を伴はざる時は分詞と動詞との働が同時に起る場合となる、

現在分詞が **estar, andar, ir, vir, ficar** 等の動詞と配合されたる時は動作の進行しつつあることを示し、他の動詞と配合されたる時は情況を示す形容詞の性質を受く

Estou estudando. 學んで居る、

Partiu chorando. 泣きながら出立せし。

〔注意〕 参考の爲め述べんに文法家によりては現在分詞單獨の形は動詞の性を受くるも形容詞の性を受けず寧ろ**何々すること**とか**何々する時**と云ふ名詞とも見做さる理由の下に動詞的名詞 (Gerundio) と稱し分詞と區別する者あり、又往時は別に語尾を **nte** に作る現在分詞あり、即ち第一變化には **amante** 第二變化には **tem nte** 第三變化には **ouvinte** の如き形を用ゐたるも現今は分詞として用ゐずして動詞的形容詞として用ゐ居れり。

過去分詞は過去の動作若くは状態を示すものにして形容詞の性質を有す、而して其應用に従ひ時に能動體となるも普通の場合を受動體なり、又單に形容詞となる、過去分詞は不定法の語尾を第一變化動詞には **ado** に第二第三變化には **ido** を附して **amado, vendido, partido** の如く作る。

過去分詞は助動詞 **ter** 又は **haver** に伴ひ動詞の複

形を作るに用ふ、此場合には變化せず

Tenho cahido; ella tinha cahido;

As casas que tenho compradoの如し。

然れとも助動詞 **ser** 若くは **estar** と配合されし時は受動體となり、主格の性、數に應じ變化す、

Sou amado; somos amados;

Ellas são amadas.

Estou ferido, ella está ferida.

過去分詞は形容詞に用ゐらるる時は其の名詞若くは代名詞の性、數に應じて變化す、

Ellas chegaram todas molhadas.

過去分詞には前記の規則により作らるるものと不規則的に作らるるものとあり、若干動詞は單に不規則の形のみを有するものと規則的不規則的兩形を有するものとあり。

前者は **posto, feito, dito, visto, vindo, aberto, coberto** 等

後者は規則的の形の外に羅典語原形を保持するものとの二様を有し次の如きものなり

二様の過去分詞を有する動詞

	規則的	不規則的
Aceitar	aceitado	-aceito
Afeiçoar	afeiçoado	-affecto
Annexar	annexado	-annexo

Captivar	captivado	-captivo
Cegar	cegado	-cego
Completar	completado	-completo
Condensar	condensado	-condenso
Cultivar	cultivado	-culto
Curvar	curvado	-curvo
Descalçar	descalçado	-descalço
Despertar	despertado	-desperto
Dispensar	dispensado	-dispenso
Entregar	entregado	-entregue
Enxugar	enxugado	-enxuto
Estreitar	estreitado	-estreito
Exceptuar	exceptuado	-excepto
Expressar	expressado	-expresso
Expulsar	expulsado	-expulso
Faltar	faltado	-falto
Fartar	fartado	-farto
Fixar	fixado	-fixo
Gastar	gastado	-gasto
Inquietar	inquietado	-inquieto
Isentar	isentado	-isento
Juntar	juntado	-junto
Livrar	livrado	-livre
Limpar	limpado	-limpo
Matar	matado	-morto

Misturar	misturado	-misto
Molestar	molestado	-molesto
Murchar	murchado	-murchado
Occultar	occultado	-occulto
Pagar	pagado	-pago
Professar	professado	-professo
Quietar	quietado	-quieto
Safar	safado	-safo
Salvar	salvado	-salvo
Seccar	seccado	-secco
Segurar	segurado	-seguro
Sepultar	sepultado	-sepulto
Situar	situado	-sito
Soltar	soltado	-solto
Sujeitar	sujeitado	-sujeito
Suspeitar	suspeitado	-suspeito
Vagar	vagado	-vago
Absolver	absolvido	-absolto
Accender	accendido	-acceso
Attender	attendido	-attento
Conter	contido	-conteudo
Convencer	convensido	-convicto
Converter	convertido	-converso
Corromper	corrompido	-corrupto

Defender	defendido	-defeso
Devolver	devoivido	-devoluto
Eleger	elegido	-eleito
Envolver	envolvido	-envolto
Escrever	escrevido	-escripto
Estender	estendido	-estenso
Extender	extendido	-extenso
Incorrer	incorrido	-incurso
Inverter	invertido	-inverso
Interromper	..	interrompido	-interrupto
Morrer	morrido	-morto
Nascer	nascido	-nato
Perverter	pervertido	-perverso
Prender	prendido	-preso
Querer	querido	-quisto
Resolver	resolvido	-resoluto
Romper	rompido	-roto
Suspender	suspendido	-suspensio
Torcer	torcido	-torto
Abrir	abrido	-aberto
Affliger	affligido	-afflicto
Cobrir	cobrido	-coberto
Comprimir	comprimido	-compressio
Concluir	concluido	-concluso

Confundir	confundido	-confuso
Contrahir	contrahido	-contracto
Contundir	contundido	-contuso
Digerir	digerido	-digesto
Distinguir	distinguido	-distincto
Dividir	dividido	-diviso
Erigir	erigido	-erecto
Excluir	excluido	-excluso
Exhaurir	exhaurido	-exhausto
Eximir	eximido	-isento
Expellir	expellido	-expulso
Exprimir	exprimido	-expresso
Extinguir	extinguido	-extincto
Extrahir	extrahido	-extracto
Frigir	frigido	-frito
Imprimir	imprimido	-impresso
Incluir	incluido	-incluso
Infundir	infundido	-infuso
Inserir	inserido	-inserto
Omitter	omittido	-omisso
Opprimir	opprimido	-oppresso
Possuir	possuido	-possesso
Reprimir	reprimido	-represso
Restringir	restringido	-restricto
Submergir	submergido	-submerso

Supprimir suprimido -suppresso

Surgir surgido -surto

Tingir tingido -tincto

普通 *ter* と *haver* とに配合されたる時は規則的の形を用ゐ、*ser* と *estar* に配合されたる時及び形容詞に役立てる時は不規則的の形を用ふ。

例へば *tenho concluido* とし *tenho concluso* となさず、*tenho entregado* とし *tenho entregue* となさず、是に反し *uma carta escripta* とし *escrevida* となさず (形容詞の場合)。

o projecto foi aceito とし *aceitado* となさず (*ser* 動詞と配合せる場合)。

過去分詞は時に能動體となる、例せば

chegado o medico.

recebidas as cartas.

acabado o jantar の如くにして恰も、到着して、受取つて、終つたと云ふに當る、此の場合は過去分詞は其の關聯せる名詞又は代名詞に先立たるるものとす。

過去分詞は又稀に名詞に用ゐらるることあり。

例 *o comunicado*, (通報)

o mandado. (命令, 令狀)

a nascida (瘤) の如し

過去分詞の複形は一動作の前に行はるる過去の事柄

を示すものにして恰も直接法の大過去と同様なる時の關係を保つ

Tendo chegado o medico.

Tendo recebido as cartas.

此例に於る *tendo chegado* は「來著した所で」と云ふに當り、*tendo recebido* は「受取つたので」と云ふに當る。

動詞の接續法の用法

主動詞が直接法の現在に置かれたる時:

(1) 從屬動詞が現在或は近き未來を示すには接續法の現在を用ふ。

Estimo que venha já.

Estimo que venha amanhã.

(2) 同上過去に屬するも多少繼續の意味あり全く終了して居らぬ事柄を言ひ表はすには接續法の不完全過去を用ふ

Estimo que viesses.

(3) 同上過去に屬する事柄にて全く終了せる場合には接續法完全過去を用ふ。

Estimo que tenhas vindo.

主動詞が直接法の不完全過去、完全過去又は大過去若しくは條件法の不完全の時に置かれたる時。

(1) 主句に表はされたる「時」と同時に行はれたる事柄若しくは其時より未來に屬する事柄を從句に示すに

は接續法不完全過去を用ふ。

estimava	}	que viesses.
estimei		
estimára		
estimaria		

(2) 主句に表はされて居る「時」より過去に屬する事柄を従句に表はす時は接續法の大過去を用ふ。

estimava	}	que tivesses vindo.
estimei		
estimára		
estimaria		

主動詞が直接法の未來に置かれたる時：

(1) 従句に未來に屬する不確定の事柄を示す場合には接續法の現在を用ひ若し事柄が條件的ならば接續法不完全未來を用ふ。

estimarei	}	que venhas.
		se vieres.

(2) 従句に未來に屬する確定の事柄を示す場合には接續法の完全過去(複形)を用ひ若し其事柄が條件的ならば接續法の完全未來(複形)を用ふ。

estimarei	}	que o Sr. tenha vindo.
		se o Sr. tiver vindo.

主動詞が條件法の現在に置かれし時

補足文中に示さるる事柄が條件的にして se (若しも) を先立てたる場合には接續法不完全過去を用ひ。

Diria se pudesse.

主動詞が條件法の過去に置かれ従句に過去の事柄を示さるる場合 se を伴ふ時は接續法の大過去又は不完全過去を用ひ。

teria dito	}	se	tivesse podido.	
又			}	pudesse 又は pudéra.
dissera				

接續法の用法と關聯して懷疑體と約束體との命題(成文)に於る se と que の應用法を知るを便宜とす。

懷疑體の時にも偶然の出來事を言ひ表はす場合と可能的若くは假定的の場合とあり。

(1) 第一の場合即ち偶然の出來事を言ひ表はす時假令は私は彼が來るかを疑ふと云ふ如くなる時は直接法接續法何れを用ふるも可なれ共前者の時は se を採り後者を用ふる時は que を採るべし。

例 duvido se vem 又は que venha.
 duvido se tem vindo 又は que tenha vindo.
 duvido se veio 又は que viesse.
 duvido se tinha vindo 又は que tivesse vindo.

(2) 第二の場合即ち可能的若くは假定的假令は私は彼が來られるであらうかを疑ふと云ふが如き場合には時に約束法に se を先立てたるものを用ひ決して que

を用ふべからず

例: *duvido se viria*

duvido se teria vindo の如く

que viria とすべからず。

(3) 同じく疑問體にても恐怖嫌忌等の意味を含める場合假令は或る事柄が己の欲せざることにて而も實現を恐れると云ふ様な場合には接續法を以てし *se* に非ずして *que* を用ふべし

例: *Temo que me castigue.*

Temo que chova.

(4) 是に反して或る事柄の實現すべきを欲し而してせざらんかを氣遣ふ場合には同じく接續法を以てし動詞を否定形となし *que* を用ふべし

例: *Temo que me não pague.*

Temia que não o quizesse.

約束體の時にも偶然的の場合と假定的の場合とあり
偶然的の場合

事柄が確定的の場合には直接法の現在又は未來を用ひ不確定的の場合には接續法の未來を用ふべし

現在の例: *Prometto-te se fizeres.*

未來の例: *Farei o que me pedes, se puder.*

假定的の場合

主句の動詞が條件法の不完全の「時」なる場合には従句の動詞は接續法の不完全過去を用ふべし。

現在の例: *Eu te obsequiaria, se tu me obsequiasses.*

又主句の動詞が條件法の完全の「時」なる場合には接續法の大過去を用ふべし。

過去の例: *Eu te teria obsequiado, se tu me tivesses obsequiado primeiro.*

ter 動詞と haver 動詞の區別

ter と *haver* は共に佛語の *avoir* 英語の *to have* なれ共各其の特質を有し用法を異にす。

ter 動詞は他動詞として(持つ, 有する)の意味にて *tenho dinheiro*; *tenho fome* の如し又他の動詞の複形の「時」を作るに助動詞として役立つる葡語に於る純粹の助動詞なり。

haver は往時他動詞として *ter* と同様に使用されるも現今は餘り用ゐず, 助動詞として *ter* に代用する場合の外には不人稱動詞となり(持つ, 有する)の意味なくして *existir* (存在する)と云ふ意味に當る而して此の場合には前に述たる如く單に三人稱單數の「時」あるのみなり, 假令は直接法現在に於る *ha* は佛語の *il ya* 英語の *there is* に當り「ある」となり又過去の *houve* は「ありし」となる如し, 例を示せば

Ha muita gente no parque.

Não havia cartas para mim?

の如く, 又時を示す名詞に附隨する時は經過を意味す
例へば

Ha uma hora que elle esteve aqui.

彼が此處に居たのは一時間前である。

Ha muito tempo que não recebo carta do pai. 久しぶり間父の手紙を受取らぬ。

〔注意〕 参考の爲め一言して置くことは此の動詞は佛語の *il y avoir* の如く不人稱動詞となり(持つ, 有する,) 意味を失ひて存在すると云ふ意味なりと述べ置たるか是は便宜上斯く譯したるまでにて動詞の本意義は矢張(持つ)なり, 而して其主格は「時」「時代」「世界」「場所」「場合」とか云ふ名詞が潜在し居るのである。

ter, haver は等く助動詞として動詞の複形時を作るに役立つが **ter** を用ゐたる時は一般に動作を表はし, **haver** を用ゐたる時は状態を表はす。

動詞の特別なる用法

Ser 動詞 と estar 動詞

ser と **estar** は共に佛語の *être* 英語の *to be* にして「ある」なれども各其の應用を異にす **ser** は(有る)にして **estar** は(居る)なり故に *estou bom* と云ふ時は(私は健康である) *sou bom* と云ふ時は(我は善きものなり)との意味となる又 *estou doente* は(病氣して居る)意味にして *sou doente* は(不健康の體質即ち病身なり)と云ふことに當る。

主格の屬詞が物の永久不變の性質を有するものなる時は **ser** 動詞を用ゆ, 例へば *sou homem, sou Japonês* と云ふが如く若し此場合に **estar** を用ふる時は *estou*

homem は人間なりと云ふ意味に非ずして(成人)と云ふこととなり一人前の丁年に達したる意味なり是と同じく *estou Japonês* は日本人なりに非ずして日本人となつて居ること即ち一時何か都合上日本人の取扱を受けて居る場合若くは日本趣味又は日本語を解する點に於て日本人同様なりと云ふ意味より私は日本人なりと云ふなり, 茲に一例を舉れば *este homem é rico* と云へば此人は元來富者なること是に反して *está rico* と云ふ時は現時富者なること即ち成金を意味す

ser と **estar** か動詞的形容詞即ち過去分詞と結付けられたる時受動的の場合には **ser** を用ゐる單に状態を示す場合には **estar** を用ふ例へば *foi ferido de uma lançada* (槍で突かれて負傷した); *elle já e tava ferido quando cheguei* (私が來た時には彼は負傷して居つた)の如し。

職業又は地位を表はす時は **ser** を用ふ

sou pintor (私は畫工です); *sou livreiro* (本屋です); *é ministro* (彼は公使です)の如し此場合 **estar** 動詞を用ふる時は意味の相違を來す, *estou pintor* と云へば本職の畫工の役を勤めて居ることになる。

物の本質(固形體, 流動體, 瓦斯體, 及色素, 硬軟等)を表はす時も **ser** を用ふ

é de ouro (金である), *é solido* (硬固なり)

é redondo (圓形である), *é azul* (青色である)

の如く, 是に反して物の本質にあらずして一時的偶然

の境遇を表はす時は *estar* を用ふ、例せば

a água está gelada (水が凍てる)

o gelo está derretido (氷が解てる) の如し。

物の原産地、用途又は目的に立てらるる時は *ser* を用ふ。

sou de Tokio (東京生れと云ふ意); estas batatas são de Hokkaido (此等の芋は北海道産なり)。

este óleo é para o cabelo (此油は頭髪毛用なり);

este livro é para meu irmão (此本は私の兄弟の爲にするものです)。

日時を示す時は *ser* を用ふ

são tres horas (三時です); era meio-dia (正午でした); hoje são 15 do mez (今日は月の十五日です)

不人稱動詞に用ひらるる時は次に掲ぐる場合の外は *ser* を用ふ

例: é verdade (本当です); é fácil de dizer (言ふのは易きことです); é bom ter amigos (友を持つのは善事です)

estar を用ふるは次の如き熟語に限る

está bom!; está direito.; está dito.; está feito

等

助動詞として現在分詞と結び付け其の動詞の働が進行中なる所謂進行形の場合に用ひらるるは *estar* にして *ser* に非ず。

estou escrevendo (私は書きつつある)

o que está V. fazendo? (何を汝はなしつつあるか)。

andar (歩む) と *ir* (行く) 動詞

andar と *ir* とは助動詞として現在分詞を結付け進行形を作る時には *estar* と同意義にして「居る」と譯される、然共其間多少の相違あり。

estar は分詞の言ひ表はす動作が繼續中なる事を意味し而して或る事柄と並存なること。

andar は動作が反覆して繼續さるる意味を有し *ir* は動作の進行的繼續の意味を有す。

Eu estava jantando quando elle chegou;

Estivemos passeando no parque toda a manhã.

即ち彼が來りし時と晩食をとりつつありしと云ふ事柄と午前中は散歩しつつありし事柄と並存するなり。

Ando procurando uma casa;

Elle anda dizendo mal de mim.

即ち前者は反覆的に家を探すことを續行して居る意味にて後者は悪口を言ひ歩いて居ると云ふ意味なり。

〔注意〕 *Estar* と *andar* とは如上の場合に現在分詞の代りに不定法を用ひ之に前置詞 *a* を先立つて同様の意義をなす。

estivemos a passear,.....

elle anda a dizer.....の如し。

andar 動詞は形容詞に伴れたる時屢々歩むと云ふ本意義を失ひ單に繼續中の意を示すに止まる場合あり

ando bom 常に健康で居る。
anda doente 彼は絶へず病氣して居る。
anda contente 何時も満足して居る。

(1) **andar** は **com** を伴ふ時は所有の意を有す。

anda com medo 常に恐怖を懷て居る。
anda com dôr de cabeça, 常に頭痛を感じる。

(2) **de** を伴ふ時は着する, 携へる, 持つ等の意を有す。

anda de sobrecasaca, 彼は「フロックコート」を常用する。
anda de chapéo de chuva 何時も洋傘を携帯して居る。

(8) **em** を伴ふ時は反覆續行する意を有す。

quando andavamos na escola……,
我々が……學校に通つて居た時。

ir 此の動詞も助動詞として現在分詞を結付け進行形をなす時は「ある」と譯す。

A minha posição vai melhorando.

私の地位は漸々善くなりつつある。

ir andando は進行の意味を示し歩行の意味にあらず。

Vá andando, eu o alcançarei,

ズンズン歩いて行きなさい私は追付きますから。

ir は「行く」と云ふ本意義を失ひ繼續中である意を示す場合あり。

Vou bem 健康である。

命令法の二人稱複數 **vamos** は我々をしてなさしめよと云ふ實行を促す意義なり。

Vamos trabalhar 働きましょう。

適合の意味に用ゐる

Esse fato vai-lhe bem 此服は君に好く似合ふ

Fazer (成す, 作る)

日本語の寒い, 暑い, 風が吹く, 好天氣である等天候を言ひ表はす時には此動詞を用ふ

Faz frio 寒い; faz calor 暑い;

Hoje faz vento 今日は風がある;

Amanhã fará bom tempo

明日は好天氣でしょう;

Faz sol, 晴る。

de を伴ひ名詞に伴れたる時は自動詞にして模倣する,……の風する,……の代をなす等の意義あり。

Faz de surdo 聾者の風をする;

Faz de sabio 學者を氣取る;

Faz de dono da casa 家の主になり代る。

que を伴ひ動詞に連かれたる時も同上の意義を有す但し此場合には他動詞なり。

Faz que não ouve 聞かざる風する。

Ficar (止まる, 残留する)

(1) 成るの意義に用ゐらる。

Ficar triste 悄然となる。

Ficar alegre 快活になる。

(2) 適合の意義に用ゐらる。

Esse chapéo não lhe fica bem.

此の帽子は君に似合はない

(3) com を伴ふ時收得を意味し sem を伴ふ時は是と反對に喪失を意味す。

Ficar com a fortuna do pai.

親の財産を收得する。

Ficar sem a sua fortuna. 己れの財産を失ふ。

第七章**副詞 Adverbio.**

副詞は不變化語にして動詞、形容詞或は他の副詞に副ひ其の意義を増減し又は其の情況を示すに用ふるものなり、例せば。

Andar depressa 急いで歩く

Uma casa bem construida 善く建築されたる家

Chegar muito tarde 甚だ遅く着する。

の如く第一例の depressa は andar (歩く) 動詞の情況を言ひ表はし、第二の bem は形容詞 construida (建られたるもの) の情況を、第三の muito は tarde と云ふ副詞の意義を増大するなり。

而して形式上より單形なるものと熟字となるものとあり、以上の例に擧たるものは單形なるものにして熟字は二個以上の語より組成さるるもの例せば

de repente, quanto antes, de vez em quando 等の如きものなり。

但し單形なるものにも嚴格なる意味より云へば前置詞と名詞又は副詞若くは名詞と形容詞等の組成語とも云ふべきものあり。

talvez, ante-hontem, outr'ora の如き是なり。

又大抵の形容詞は mente を附加して副詞となる。

例せば feliz に **mente** を加へ felizmente (幸に) と副詞になるが如し、而して此場合に若し形容詞が男女性共通として語尾の變化なきものなれば單に mente を付し一字となすこと feliz を felizmente, prudente を prudentemente, regular を regularmente となすか如くなれども若し男性女性語尾を異にする時は女性の形を採り、次の如くなす

Claro—claramente.

Novo—novamente.

Sincero—sinceramente.

若干の副詞 cedo (早く) tarde (遅く) perto (近く) longe (遠く) の如きもの及び形容詞に **mente** を付して成る副詞は恰も形容詞に於ける比較度の如く mais, menos, tão 等を付することに依りて優等, 劣等, 同等の比較級を作り、又 muito を付して最上級を作り尙又íssima 語尾を有するものを其儘に用ひ **mente** を付して最上級を作ること得るなり、例せば

mais cedo, menos tarde, tão perto,
 muito cedo, muito longe, mais favoravelmente,
 menos agradavelmente, muito amavelmente,
 riquissimamente, justissimamente,
 bellissimamente の如く更に名詞又は形容詞と同じく inho を付して縮少形を作ることあり。
 cedinho, tardinho, pertinho, juntinho 等の如し。

但し此等の縮少辭は縮少の意味に非ずして反對に意味

を強めて「甚だ」とか「最も」となる即ち cedinho 甚だ早く, juntinho は最も接近しての意味なり。

副詞は意味の上より次の如く類別せらる。

場所の副詞 (Adverbios de lugar.)
 時の副詞 („ de tempo.)
 分量の副詞 („ de quantidade.)
 方法と種類の副詞 („ de modo e qualidade.)

順序の副詞 (Adverbios de ordem)
 肯定と否定の副詞 („ de afirmativo e negativo)

懷疑の副詞 (Adverbios de duvida)
 疑問の副詞 („ de interrogação)

最も普通に用ゐらるる副詞は下の如し

場所の副詞

Aqui	此處に	Ahi	彼處に
Ali	彼處に	Cá	此方に
Lá	彼方に	Além	先の方に
Acolá	あちのの方に	Antes	先に
Onde	何處に	Adiante	前方に
Longe	遠く	Atraz	後方に
Perto	近く	Acima	上に
Fóra	外に	Abaixo	下に
Dentro	内に	Aquem	手前に

同上 mente 形

inferiormente	下に, 下部に, 劣りて
superiormente	上に, 上部に, 優りて
interiormente	内部に, 中に
exteriormente	外部に, 外面に, 表面に

同上熟字

por onde	何處を経て	de traz	後方から
d'onde	何處から	adiante	前方へ
para onde	何處へ	por toda a parte	至る處に, 何處でも
até aqui	此處まで	ao redor	周圍に
até ali	其所まで		
por cima	上部に		
para cima	上方へ		
em cima	上に		
em baixo	下に		

時の副詞

hoje	今日
amanhã	明日
ontem	昨日
antes	先に
depois	後に
agora	今
ora	只今
então	其時に

cedo	早く
tarde	晩く
já	直に; 既に
sempre	常に, 何時も
nunca	曾て(否定)
jamais	
ainda	未だ
entretanto	其間に

同上 mente 形

actualmente	現に, 目下
diariamente	毎日
mensalmente	毎月
anualmente	毎年
presentemente	現に, 現今, 只今
ultimamente	最近, 近頃, 此頃

同上熟字

cada dia	各日,	as vezes	時々, 屢々
muitas vezes			屢々, 毎度
d'ora em diante			自今以後
de hoje em diante			今日以後
depois d'amanhã			明後日
ante-hontem			一昨日
traz ante-hontem			一昨々日
de manhã			朝に, 午前に
pela manhã			朝の中に, 午前中に

á noite	夜に
de noite	夜中に
de dia	日中に
ainda agora	今しがた
de quando em quando	時々, 折々
de vez em quando	
para sempre	何時迄も, 永久に
em continente	直に, 即時に

分量の副詞

assaz	充分に,	quanto	同上
bastante	充分に, 可なりに	tão	其れ程
demasiado	過度に, 餘分に	tanto	其程多く
muito	多く, 大に	só	單に
pouco	少なく, 僅に	quasi	殆と
quão	幾何く, どの位	apenas	僅に
mais	もつと	menos	少なく

同上 mente 形

bastantemente	充分に
suficientemente	充分に, 足りて, 相應に
demasiadamente	過度に, 餘分に
excessivamente	過度に, 法外に
extremamente	極端に, 極度に
parcialmente	一部分に, 部分的に
generalmente	一般に, 普通に
inteiramente	全々

同上熟字

de mais a mais	其の上, 益々, 愈々
tão pouco	矢張り (否定)
outro tanto	其丈け多く
mais ou menos	多少, 大抵
quando muito	多くとも
quando menos	少くとも
ao menos	少くも
em summa	要するに, 結句

方法と種類の副詞

bem	善く	tambem	同様に
mal	悪く	apenas	辛して
melhor	より善く	entretanto	去りながら
peor	より悪く	acaso	偶然に
assim	此の如く	alias	兎も角も, 然も

同上 mente 形

boamente	善く	malmente	悪く
optimamente	最上に	amigavelmente	懇切に

同上熟字

por bem	親切に
pouco a pouco	少しつつ
assim assim	可なりに, 善からず 悪しからず
assim ou assado	あれだこれだ, あーでもない こーでもない

em vão	}	無に, 無益に
de balde		
de parte a parte		一方より他方迄
de caso pensado		故らに, 故意に
sem mais nem mais		無意味に, 畢竟
de proposito		特に, 故らに
pelo contrario		是に反して
com gosto		喜んで
á queima roupa		甚だ接近して

順序の副詞

antes	先に	primeiro	第一番に
depois	後に	segundo	第二番目に

其の他の序数等.

同上 mente 形

primeiramente	最初に
seguidamente	後續して, 直く後に
sucessivamente	連續して, 續々
alternativamente	更互に, 交代に
finalmente	最後に

同上熟字

em fim	}	卒に, 終に	por ultimo	最後に
por fim				
em summa		結句		

肯定と否定の副詞

sim	然り	nunca	同上
-----	----	-------	----

não	否	devéras	實際に
nada	決して	jamais	同上

同上 mente 形

certamente	無論, 確に
realmente	眞實, 實際に
verdadeiramente	同上
evidentemente	明かに, 固より
incontestavelmente	異論なく, 勿論
effectivamente	實際に
afirmativamente	肯定として, 是認して
negativamente	否定的に, 打消して

同上熟字

na verdade	眞に, 實に
sem duvida	疑なく, 勿論
com effeito	正に, 果して
pois sim	然り, 其の通り, 勿論
pois não	然り, 疑もなく, 勿論
pois bem	然らば善し
isto é	畢竟

懷疑の副詞

póde ser	恐らくは, 或は, 多分
quicá	同上
talvez	同上

疑問の副詞

como?	如何に,	onde?	何處に,	porque?	なぜ
-------	------	-------	------	---------	----

quando? 何時, quanto? 幾何

副詞に関する注意

時として形容詞を其儘副詞に用ふることあり。

例: falar correcto 正確に話す.

vender barato 安く賣る.

comprar caro 高く買ふ.

(此の場合は男性を採るべし)。

mente 形の副詞は連続的に置れたる場合には **mente** は最後の形容詞にのみ付し其他のものには省かる。

例せば

clara, concisa e elegantement の如し.

順序副詞中 **primeiro** (第一番に) は **primeramente** と **mente** 形になすことを得るも第二以下の **segundo**, **terceiro** 等は **em segundo lugar**, **em terceiro lugar** とし **mente** 形となすことを得ず。

jamais, **nunca**, **nada** は動詞の前に置かるる時は自體否定形なる故に動詞を否定形となす要なし然れども是に反して動詞の後に置れたる時は動詞を否定形になすを例とす。

jamais descanso—não descanso jamais,

nunca sahio de noite—não sahio nunca de noite,

nada quero—não quero nada 等の如し

[注意] nunca と jamais は同意義の語なれ共前者

は「曾てなし」の外に「決して」と云ふ否定意義あり且事柄が確定せる場合に多く用ひられ後者は「如何なる時たりとも」と云ふ否定意義に止まり且つ疑問句若くは懷疑の句も多く用ゐらる。

mal は副詞として用ゐらるる時「辛ふして」「何々するや否や」の意義あり

Mal tinha chegado quando.....

Mal o vio,.....

.....の時には着いたか着かなかつたか

彼を見たか見ぬかに.....

又 **mal** は形容詞 又は 過去分詞の前に置かれたる時は「甚だ」「全く」を意味す

mal ferido 甚しく負傷して

mal doente 重く病して

tambem と **tão pouco**.

兩者共「亦」なれ共前者は肯定, 後者は否定とす。

não は

此の否定の副詞は常に動詞の前に置かれて動詞を否定形とし又動詞を離れて單獨に用ゐられ否定文の意味を強むる爲に用ゐらる。

Não, eu não posso acreditar nisso.

sempre

は「常に」の外 **todavia** と等しく「然りながら」兎に角」を意味する場合あり

Apezar de tudo sempre sou seu amigo.

cá と lá

cá は「此方」の意義の外に**第一人稱**に附し又 lá は「彼方」の意義の外に**第二, 第三人稱**に附し單に語勢を強むる爲に用ゐらるることあり。

Eu cá julgo que elle não vem,

Nós cá queremos,

Tu lá sabes,

Elle lá tem,

Elles lá são ricos.

又 la' は懷疑語法として**各人稱**に附せらるることあり

Eu lá sei,

Nós lá queremos isso.

若干の副詞は冠詞を付して名詞として用ひらる

O muito que me obsequiou,

O pouco que tenho,

Ninguém sabe o quanto me custa,

Ignora-se o quando e o como,

Dê-lhe um tanto por dia.

副詞の位置

副詞は通例動詞の後に置かるるも疑問, 否定, 時, 場所等の副詞及び形容詞若くは他の副詞に副ふる時は常に前に置かる。

Come bem,

Dorme mal,

D'onde veio o Sr.?

Quando chegou o seu irmão?

Nunca vi tal cousa.

而て若し動詞か複形なる時は過去分詞の後に置かる

Tenho trabalhado muito.

Terá esperado tanto.

副詞は動詞の後に置かるるを普通とするも稀には副詞を以て句を起すことあり, 例せば

Bem vejo a razão,

Claramente se vê que.....

の如し

動詞が受動體の場合に分量と方法の副詞は通例助動詞 ser と過去分詞との間に置かる。

E' sempre amado.

Temos sido tão enganados.

助動詞と現在分詞を結付たる所謂進行形なる場合には動詞の後に置かる

Estou soffrendo muito の如く。

Estou muito soffrendo となすべからず。

第八章

前置詞 Preposição

前置詞は二語を連続して其の關係を示す不變化語なり、例せば *anel de ouro, vou a Paris, viveu durante 10 annos, estive em casa* 等に於ける *de, a, durante, em* は前置詞にして *anel* と *ouro, vou* と *Paris* 等の關係を示す意味を補足するものなり

前置詞は此等の相關係する語の間に置かるるを規則とす、而して前置詞の前に來るものを其の前提詞 (*Antecedente*) と云ひ後に來るものを定詞 (*Complemento*) と云ひ即ち前提詞を補足する所の定詞を結び付ける役目をなす。

前置詞にも單形と複形とあり

單形は單一なる語なるもの *a, de, em, por* 等の如きもの、複形とは二語以上を併せ用ゆる所謂熟語なるもの *dentro de, ao redor de, em vez de* の如きものなり

重に使用せらるる單形の前置詞は下の如し

<i>a</i>	に, まで	<i>antes</i>	の前に, の先に
<i>de</i>	の, より, から	<i>perante</i>	の前に, 面前に, に
<i>em</i>	に於て		對して
<i>sobre</i>	の上に, に關して	<i>após</i>	の後に
<i>sob</i>	の下に	<i>traz</i>	の後に, 背後に

<i>entre</i>	の間に	<i>durante</i>	……の間
<i>contra</i>	に對して, に反して	<i>conforme</i>	……に應して……
<i>para</i>	に向て, の方へ, の爲めに		の通り
<i>por</i>	に依りて	<i>segundo</i>	……に由れば……從て
<i>com</i>	と共に, を以て	<i>mediante</i>	……に依り
<i>sem</i>	なしに	<i>excepto</i>	を除て, の外
<i>desde</i>	より以來……より	<i>salvo</i>	を除く外, を措て
<i>até</i>	まで		但し

重なる前置詞の熟語は下の如し

<i>abaixo de</i>	の下部に	<i>para cima de</i>	の上方へ
<i>debaixo de</i>	の下に	<i>cerca de</i>	近く, の頃に
<i>acima de</i>	の上部に	<i>a roda de</i>	の周圍に
<i>de cima de</i>	の上より	<i>ao lado de</i>	の側に
<i>em cima de</i>	の上に	<i>ao pé de</i>	に接して
<i>de frente de</i>	に對して, の向ふに	<i>perto de</i>	に近く
<i>fóra de</i>	の外に	<i>em vez de</i>	の代りに
<i>alem de</i>	以外に	<i>a respeito de</i>	に關して
<i>no meio de</i>	の中に	<i>apezar de</i>	に拘はらず
<i>longe de</i>	隔りて, 遠ざかりて	<i>quanto a</i>	に付ては, に關して
<i>para cima de</i>	の上方へ	<i>para com</i>	に對して
		<i>não obstante</i>	にも拘はらず

第九章

接續詞 *Conjunção*

接續詞は二個の句を結び付くる詞にして常に其の間に置かるるものなり。

接續詞は時として二つの品詞の間に置かれ單語と單語を結付けて居るか如く見ゆるも其の實は句が省略され居る爲に斯く見ゆるなり例へは

- (1) A primavera **e** o outomno são agradaveis;
- (2) Sejam os severos, **mas** justos.
- (3) Elle é alto **e** magro.
- (4) Devemos amar **e** servir a patria.

の如く第一例は a primavera é agradável e o outomno é agraal を省略されたるもの。

第二例も Sejam os severos, mas sejam justos;

第三例も Elle é alto, e é magro 第四例も Devemos amar a patria, e devemos servir a patria とあるべき二句を略せるに過ぎず

故に接續詞は句と句又は語と語と間に置かるべきものなれ共時として句の初に置ることあり、例へは se chover, não saho の如くなれ共是は句の轉倒にして não saho, se chover とあるべきなり。

又接續詞 **e** は時に以上の例に反し明かに單語と單語

とを結び付くる役目のみをなす場合あり、例せば tres e seis são nove の如くなるも其は前置詞の役目をなし居るものなり。

叙上の如く接續詞は一見副詞前置詞の如く語と語を結付くる様なるものあるも其等の如く結び付けたる名詞、形容詞若くは動詞等の意味に變更を來さざる點に於て相異せり。

接續詞にも複形と單形とありて意味の上より次の如く類別することを得。

- (1) 連結の接續詞 (copulativos) とは單に句と句との連結に役立つものにて e, tambem, que, nem の如きもの。
- (2) 反對の接續詞 (adversativas) は既に述べられし事柄の反對を示すもの若くは制限を示すものにして mas, porém, todavia, senão, comtudo の如きもの。
- (3) 結句の接續詞 (conclusivas) は既に述べたる前句の結果を示すもの assim, logo, por conseguinte の如きもの。
- (4) 別義の接續詞 (disjunctivas) は相互間の意義の相異若くは交互的なるを示すもの nem, ou, eia の如きもの。
- (5) 條件の接續詞 (condicionaes) は必要、條件等を示すものにして se (若しも), comtanto que (……するならば……の場合には), com quanto (假令……するもの) の如きもの。

(6) 理由の接續詞 (causaes) は原因, 理由を説明するに用ゐらるるもの pois (如何となれば), porque (如何となれば, ……の故に), pois que (……故に), por isso (其か爲めに) の如きもの。

(7) 時と順序の接續詞 (tempo e ordem) は時の情況又は話の順序を示すに用ゐらるるもの em quanto (……する時の爲に), desde que (……より以來), logo que (……するや直に) の如きもの。

(8) 比較の接續詞 (comparativas) は比較を示すもの assim como, bem como (並に, 同様に), quanto mais… ……tanto mais (……する丈其れ丈多く) 等の如きもの。

(9) 説明の接續詞 (Explicativas) は一句に對して他の句を説明的に付するに用ふるもの a saber (即ち), isto é (即ち, 換言せば), de sorte que (此の如くして) の如きもの。

重に使用さるる接續詞は下の如し

e	及ひ	porque	何となれば, ……
tambem	も亦		する故に
outrosim	尙も亦	como	…故に, …依り
mais	と, 及ひ		て, …の如く
ou	又は, 若くは	seja	或は
porém	併しなから	quer	或は, …にまれ
pois	それ故に, 如何となれば	nem	亦(否定)
		se	若しも

mas	併しなから	quando	…する時に
senão	然らざれば, ……の外, にあらずれば	logo	其れ故に
		que	…する所の…なる

若干の副詞動詞若しくは接續詞は連絡さるる句と句との前, 又は句の各節の前に反覆して置かれ交互的の意味を示す接續詞となる。例;

Seja aqui, **seja** alli ……此處にしる彼處にしる

Quer chovesse, **quer** fizesse sol…雨が降らうが天氣であらうが

Nem sahe, **nem** entra…出もせず入りもせず

Já faz isso, **já** faz aquillo …此をしたり彼をしたり (此の場合 já は ou に當る)

Ora faz isso, **ora** faz aquillo …時に此の事をしたり時に彼の事をしたり。

重なる接續詞的熟語

Ainda que	假令……するも
Antes que	…の前に
Bem que	假令……するも
Com quanto	…に拘はらず
Em quanto	…する間に
Por quanto	…の故に, 由りて
Vis'o que	同上
Se bem que	假令…たりとも

Bem como	等しく, 並に
E bem assim	尙又
Posto que	假令…たりとも
Com tanto que	…するならば, …する以上は
Pois que	…の故に
Por isso	其の爲に
Pelo que	其によりて
Por tanto	其れ故に
Ainda assim	其にしても, 尙且
De sorte que	此の如くにして
De modo que	同 上
Assim que	するや直に
Logo que	同 上
A saber	即ち
Isto é	換言すれば
Seja como for	孰れにせよ, 兎も角も
Por conseguinte	其故に

Mas と Porém

兩者共に「然乍」にして同様に使用されるも *mas* は反對若くは區別的の意味を有し *porém* は *todavia, comtudo, não obstante, apesar d'isso* (され共, ところが, にも拘はらず) の意を含む且つ *mas* は常に結び付らるる従句の初頭に置かるゝも *porém* は句の中に置かるることを得。

例: *Este homem é virtuoso, mas infeliz* 此人は道徳家であるが不幸な人である。

Elle é velho, mas não parece 彼は老人なれど左様は見へない。

Elle é velho, porém forte 彼は老人であるが強壯である。

Tem pés, porém não anda 足を有するも歩まない。

O Brazil exportou apenas um cavallo em 1917.

Importou, porém, como reproductores, 353

cabeças em 1916. 伯國は千九百十七年に僅に一頭の馬を輸出せるのみなるが千九百十六年には種馬

として三百五十三頭を輸入した。

Nem

は否定語なる故に動詞の前に置るる時は其の動詞を否定す。

例: *Não trabalham, nem deixam trabalhar.*

彼等は働もせず又働かせもせぬ。

「サヘモ」「タリトモ」の意味に用ゐらる。

例: *Não te quero ver, nem pintado,*

描いたものでも汝の姿を見るのは好かぬ。

[注意]—此場合には *Nem se quer* 又は *nem mesmo* となすも同じ。

Nem que

此に伴ふ動詞の「時」は必ず接續法なるが

Não mesmo quando 又は *nunca apesar de* (トハ

トモ) に當り従句の動詞を否定す

例: *Nem que me desse muito dinheiro, eu faria semelhante cousa* 假之多くの金を私に與へたからとて、斯様な事はせぬであらう。

Que nem

は比較の意味にて *mais do que* に當り「デサへ及バサル程ニ」となる

例: *É doce que nem o mel* 蜂蜜でも及ばぬ程甘い。
Fez-se vermelho que nem uma romã

柘榴の實より赤くなつた。

Pois

は句の初に来る時は「如何となれば」にして然らざる時は「然らば」なり

例: *Pois eu sou pobre* 如何なれば私は貧者なる故。
Está pois decidido…… 然らば……と決した

Senão

は「に非れば」にして *excepto, além de* に等し

例せば *Não irei senão convidado* (招待されなければ行きません) の如きも時として *mas* の意に用ゐらるる場合あり次の如し

Assigno não como testemunha senão como consentidor 證人として署名せぬが然し承諾者として署名せん。

第十章

間投詞 Interjecção

間投詞は精神に發せる感動を表はす語にして即ち喜怒、哀樂、驚歎等の歎聲なり。

間投詞には *ah! oh!* 等の如き感動する時に發する聲にて他に何等文字上の意味なき本來のものと *misericordia! paciencia!* の如き他の語を轉用せるものとあり。

重なるもの下の如し

	本來のもの	他の語より轉化せるもの
苦痛の情を表はすもの	<i>Ai!</i>	<i>Meu Deos!, jesus! ai de mim!</i>
歡喜の情を表すもの	<i>Oh!, O!, ah!, eh!</i>	
希望を表すもの	<i>Oh!</i>	<i>Oxalá!, Tomára eu! queira Deus</i>
恐怖不安の情を表はすもの	<i>Ih!</i>	<i>Ave Maria!, Jesus! meu Deos!</i>
嫌惡の情を表すもの	<i>Ih!, Irra!</i>	<i>Irrá!, fára! que diabo!</i>
輕蔑若くは懷疑の情を表すもの	<i>Ha! ah!</i>	<i>Qual!</i>

讚歎喝采に用ふるもの	Ah! Oh!	Bravo!, Viva!, apoiado!, muito bem!
驚異に用ふるもの	Ih!, ui!, holá!	O quê!
鼓舞に用ふるもの	Eia! sus!	Horrem!, animo!, Vamos!, ande!, coragem!
注意を興ふるに用ふるもの	O!	Alerta!, cuidado!, sentido!
招呼に用ふるもの	O!	
思ひがけなき時の歎聲なるもの	Olá! olé!	
沈黙を命ずるもの	psiu!, chiton!, tá!	Silencio!, caluda!
救を求むるもの當惑不快等を表すもの	Ai!	Socorro! Bolas!, Ora bolas!, sebo!, ora sebo!, que diabo!, Va plantar batatas!
停止を命ずるもの	Tá!	basta! alto!
同情を表すもの		Coitado! misericor- dia!
疑問に用ふるもの	Hein?	

以上は普通應用上より區別したるものにして其の應用の場合には一定の規則あるに非ず同一の間投詞にて場合と音調の差にて種々に用ゐらる例へは ah! の如き時に歡喜の間投詞となり時に苦痛、時に驚歎の間投

詞ともなるなり、又轉用語なるものも種々にして如何なる語も感情の發動にて洩出する叫聲となれば何れも間投詞となるなり、要するに間投詞の適用は實習にて會得するの外なし。

句點法 Pontuação

句點法は句法上は文章を構成する部分の句又は語を記號を以て區別し以て意味を明瞭ならしむる爲めの句切りにて同時に發音學上音の抑揚を示す爲め役立てらるるものなり

句點の記號は下の如し

Virgula (,) は同一文章中の同一部分の後若くは呼び掛け語の後に置かれる文の小段落を意味するものにて句讀の時は少時の休息をなすべきを示すものなり。

Ponto e virgula (;) は一文章中 Virgula にて句切れる獨立句若くは各自別々に意義をなせる少々長き句を割つに用ゐられ即ち文の中段落とも云ふものにて句讀の時は virgula より少々長き休息を示す

Dois pontos (:) は話節若くは説明を知らしむる爲め用ひらるるものにて句讀の時は ponto e virgula より更に長き休息を示す

Ponto final (.) は文の大段落にて一章句の終りを示すに用ゐらるるもの句讀の時は音を低くするなり

Ponto de interrogação (?) は疑問點にして疑問的章句の後に置かるるもの。

Ponto de exclamação (!) は間投詞の後方若しくは驚歎的章句の後に置かるるもの。

Aspas (“ ”) は文章中に引用せる語句若しくは文章の前後に前なる者は上方に後なる者は下方に置かれ特別の注意を促す爲めの記號なり。

Pontos de reticencia (……) は文章中一部の語句を闕き之を中斷するもの

Parenthesis () は即ち括弧にして文中説明的の語又は句を別にする爲め其の前後を圍むものにて句讀の時は是等の語句は少々低音に讀むものとす。

Travessão (—) は次に來る語句の注意を惹く爲めにして句讀の時は ponto e virgula より更に長き休息をなす。

Hyphen (-) は語の各綴に置かれ各綴の別を示す爲め若しくは二語又は數語を連絡する爲めに相互間に挟み置かるるものなり。

句點の用法は英語佛語に於ると同様なれば茲に其の大要を説明するに止たり。

重に使用さるる略字

/c	a conta	doc ^{to} .	documento
aff ^{to} .	affecto	dup ^{do} .	duplicado
Ag ^{to} .	Agosto	dup ^{ta} .	duplicata
am ^o .	amigo	duz.	duzia
Ant ^o .	Antonio	d/v.	dias de vista
Att ^o .	attento	etc.	etcetera
á/v.	a' vista	Ex ^{mo} .	} Excellentimo
c/	conta	Exc ^{mo} .	
Comp ^a .	} Companhia	Ex ^a .	} Excellencia
C ^{ia}			
C ^a			
c/c	Conta corrente	f. a. b.	franco a bordo
c. f. s.	custo, frete e seguro	Fev ^o .	Fevereiro
Conhec ^{to} .	conhecimento	F ^o .	Filho
Cont ^o .	conteúdo	Fr ^{co} .	} Francisco
Corr ^{te} .	} Corrente	Fr ^{anco} .	
C ^{te} .			
Cr ^{do} .	} Criado	id.	idem
Cr ^o .			
c/v.	Conta de venda	Ill ^{mo} .	Illustrissimo
D ^{do} .	dedicado	i, e'.	isto é
D.	dom, dona	Ir ^o .	Irmão
Dor. Dr.	doutor	Jan ^o .	Janeiro
dese ^o .	deseonto	J. H. S.	Jesus-Christo
Dez. Dez ^o .	Dezembro	Je.	José
do. d ^o .	dito	Jor.	Junior
d ^a .	dita	Kg.	} Kilo gramma
		Kilo.	
		£	libra esterlina
		lb., lbs.	libra, libras.

liq ^{ão} .	liquidação	p/c	por conta
liq ^o .	liquido	p ^{do} .	passado
L. S.	logor do sello.	Po.	Pedro
m/	meu, minha	Per ^a .	Pereira
m/c	minha carta	p. f.	proximo futuro
m ^{ca} .	marca	p. p.	proximo passado
m ^l .	Manuel	pro.	} proximo
M ^{ço} .	Março	prox ^o .	
m/l	minha letra	P. S.	Post-Scripto
m/o	minha ordem	q., q̃	que
m/s	meu saque	q ^{do} .	quando
m ^{to} ., m ^{ta} .	muito, muita	q ^{to} .	quanto
m/v.	mezes de vista	q ^m .	quem
n.	} numero	O Snr.	O Senhor
n ^o .		Rs.	Reis
n/	nosso, nossa	rec ^o .	recibo
n/c	nossa carta	resp ^a .	resposta
n/l	nossa letra	\$	milreis, dollar
n/o	nossa ordem	s/	seu, sua, sobre
Nov ^o .	Novembro	s/c	sua conta
n/s	nosso saque	segte,	seguinte
o/o	por cento	S., St ^o . St ^a .	Santo, Santa
o/	ordem	Set. ^o	Setembro
Obr ^o .	} Obrigado	S.E. ou O.	salvo erro ou omissão
Obrig ^o .		s/l	sua letra
Out ^o .	Outubro	Snr, Sr.	Senhor
p., p ^r .	por	Sñr ^a ., Sñr ^a .	Senhora
p ^a .	para	s/o	sua ordem
P. b.	posto a bordo	Sr, Srs.	Senhor, Senhores

Sza.	Souza	v. g.	Verbi gratia
Supp ^{te} .	supplicante	V. S.	Vossa Senhoria
s/s.	seu saque	V. E	} Vossa Excellencia
T ^a .	tara	V. Ex ^a .	
ton ^a .	} tonelada	Vm ^{cê} .	Vossa Mercê
ton.		V. Mag ^{de} .	Vossa Magestade
ult., ult ^o .	ultimo	V.va,	Viuva
V.	vossa mercê, você	Xbro,	Dezembro
ven ^{or} ., ven ^r .	Venerador	Xpto.	Christo

(終り)

大正十四年二月十七日印
大正十四年二月二十日發
昭和六年八月三十日訂正再版發行

(定價金七拾錢)

東京市麻布區霞町二十三番地

著者 大武和三郎

編纂者兼
發行者

海外興業株式會社

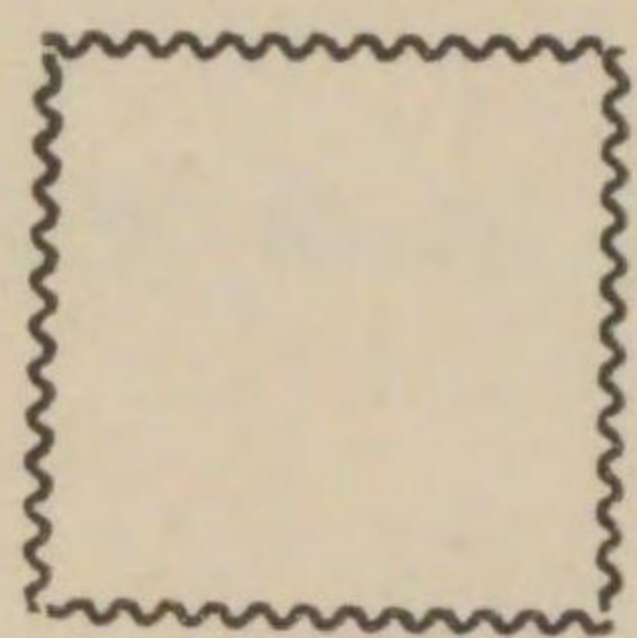
印刷者

東京市麴町區麴町八丁目一番地
杉田彌太郎

印刷所

東京市麴町區麴町八丁目一番地
杉田屋印刷所

版權所有



葡語文法解題
奧付

發行所

東京市麴町區丸ノ内三丁目六番地

海外興業株式會社

大武和三郎氏著

葡和辭典

(定價金四圓)

和葡辭典

(定價金四圓)

發行所

海外興業株式會社

東京市麴町區丸之內三丁目六番地

大武和三郎氏著
葡和辭典
和葡辭典
定價金四圓
發行所
海外興業株式會社
東京市麴町區丸之內三丁目六番地

大英三册五卷

辞林典故

(四行本)

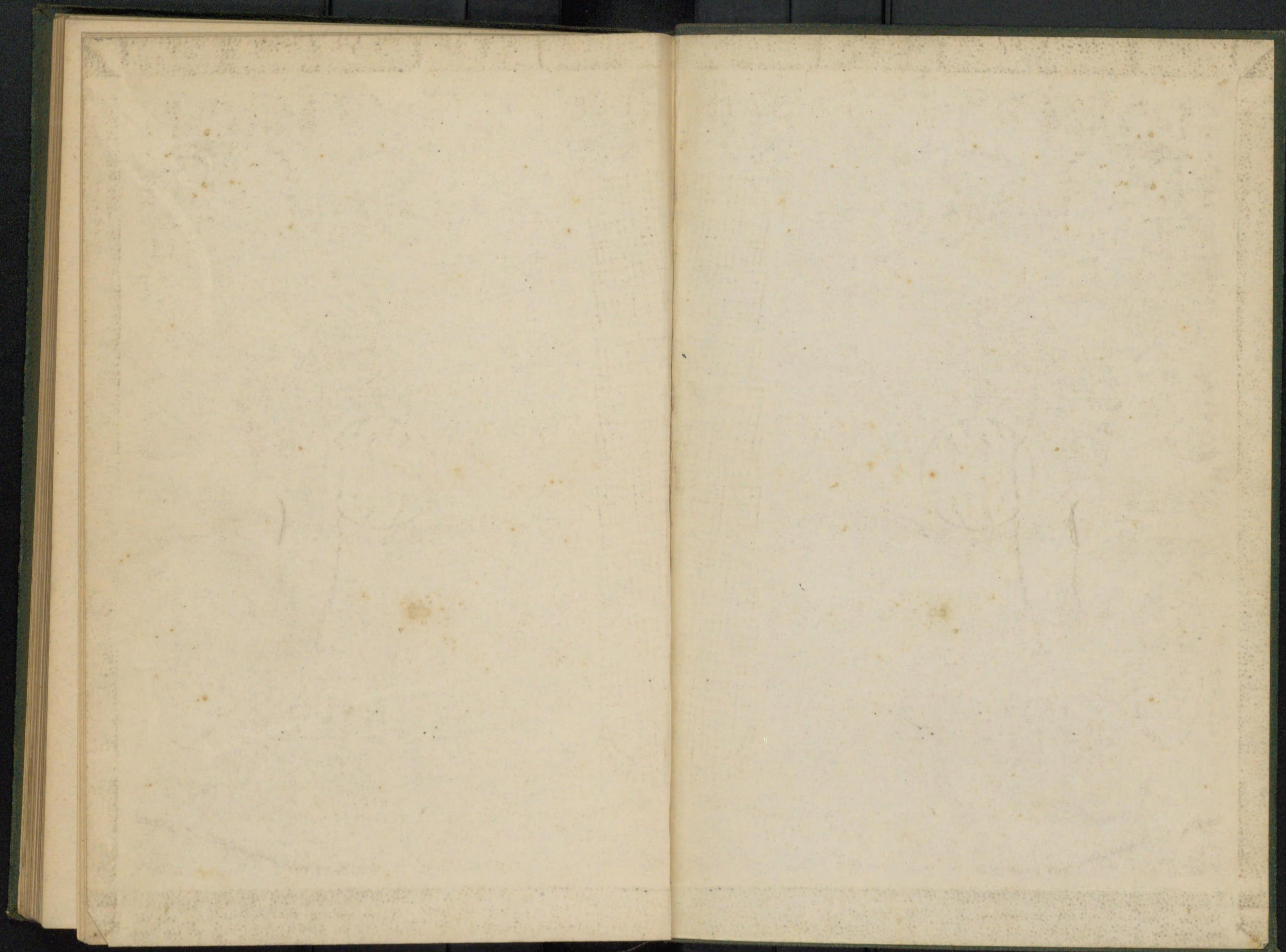
辞林典故

(四行本)

辞林典故

辞林典故

辞林典故



603-342



1200501531178

603

342

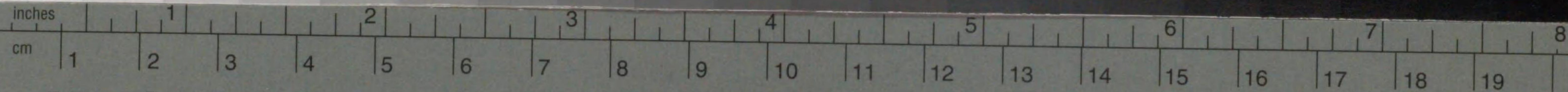


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

